

<http://www.npointelligence.com>

人獣共通感染症とワクチン村 ——731部隊・100部隊の影

加藤哲郎（ネチズンカレッジ）

katote@jcom.home.ne.jp

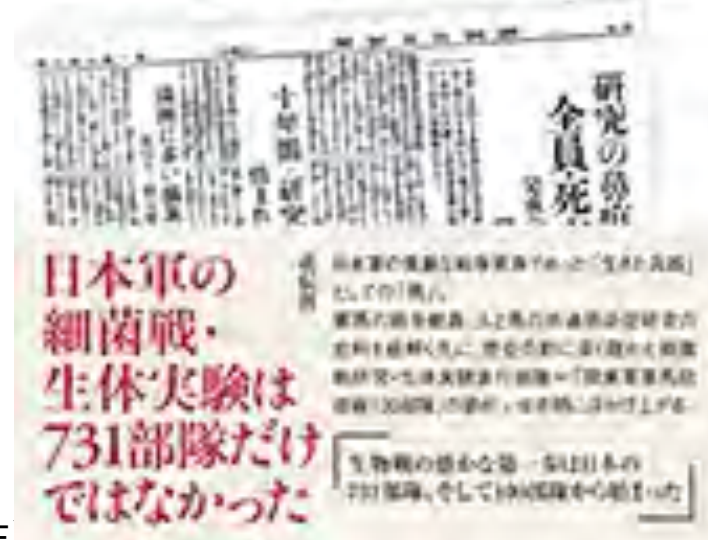
<http://netizen.html.xdomain.jp/home.html>

1. 防疫と防諜——旧内務省の「1940年体制」とその遺産
2. コロナ・パンデミックと細菌戦の影
3. GHQと731部隊・厚生省、100部隊・農林省の戦後
4. 731部隊と100部隊の遺産・交点としてのワクチン村

（参考文献）加藤哲郎・小河孝共著『731部隊と100部隊』（花伝社、2022年、

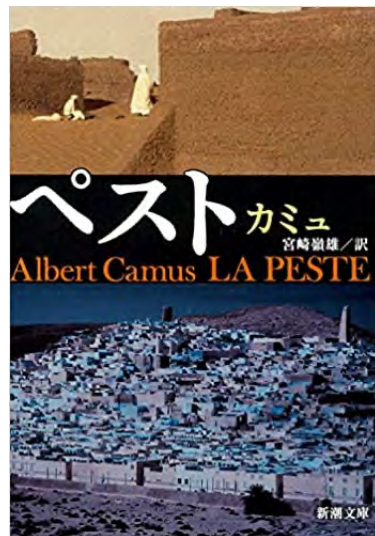
加藤『731部隊と戦後日本』（花伝社、2018年）

加藤「戦前の防疫政策・優生思想と現代」（『戦争と医学』22巻、2021.12）



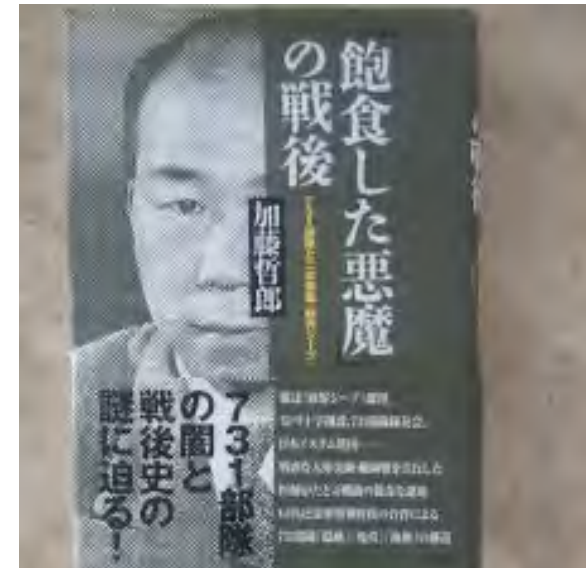
1 防疫と防諜——旧内務省の「1940年体制」とその遺産

前回 インテリジェンス研究所諜報研究会 2021/01/30 ZOOM
パンデミックとインテリジェンス→入院・手術・療養・リハビリ中



映画「スパイの妻」とゾルゲ事件

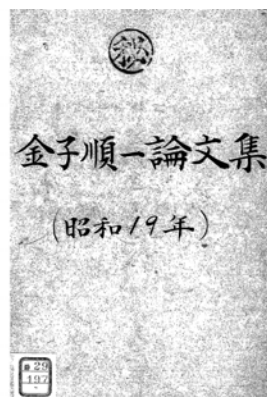
- 1940夏神戸英国人商人ドラモンドの逮捕
→ロイター東京支局長コックスら英国人
11人「**外諜**」**コックス事件**
- 満州旅行で知った**国家機密**とフィルム
→**731部隊農安・新京ペスト事件、石井
四郎の生体解剖映画**（三笠宮）
- 国防婦人会の「**自粛警察**」→「外国人を
見たらスパイと思え」
- NHK8K制作ドラマゆえにネトウヨの
「反日」攻撃（の衝撃）**2017-18年Nス
ペ「731部隊の真実」**
- 黒沢清監督は黒澤明「わが青春に悔いな
し」（滝川事件・尾崎秀実）をベースに
しなかったか？



カミュの『ペスト』と731部隊のペスト爆弾

カミュ『ペスト』 (1947)

- ・194X年アルジェリア・オラン市のネズミ媒体ペスト流行
- ・ナチスの隠喩？ 収容所内実験？への反抗と不条理
- ・第一次世界大戦終結時の「スパイン風邪」の教訓



- ・1940年夏の農安・新京ペスト（当初自然流行説）、秋以降の浙江省衢州・寧波・金華、41年湖南省常德、42年浙贛作戦等に731部隊ペストノミ撒布
- ・2011年に731金子順一（戦後伝研・武田薬品）の1949年東大博士論文発見、新京ペストも731部隊撒布判明→「スパイの妻」の見た「国家機密」

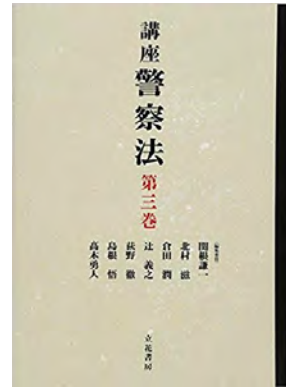
第1表 既往作戦効果概見表。

攻撃	目標	PX k g	効果		1. 0 k g 換算値		
			一次	二次	Rpr	R	Cep
15. 6. 4	農安	0. 005	8	607	1600	123, 000	76. 9
15. 6. 4~7	農安大賚	0. 010	12	2424	1200	243, 600	203. 0
15. 10. 4	衢県	8. 0	219	9060	26	1, 159	44. 2
15. 10. 27	寧波	2. 0	104	1450	52	777	14. 9
16. 11. 4	常德	1. 6	310	2500	194	1, 756	9. 1
17. 8. 1 9 ~21	廣信廣豊玉山	0. 131	42	9210	321	22, 550	70. 3

効果計算者数 廣信廣豊玉山の2010年と2010年の記録

戦前日本のインテリジェンス・コミュニティ

- 小林良樹「インテリジェンスと警察」→2014 日本版NSC
- 主要5組織 = ①内閣情報調査室、②外務省国際情報統括官、③警察庁警備局公安警察④、防衛省防衛政策局・情報本部、⑤公安調査庁
- 拡大メンバー = 金融庁、財務相、経産省、海上保安庁
- 特定秘密保護法・新安保法制準拠、国家安全保障会議（NSC）、米国との関係、辺野古・選挙やシノハラ・韓人対策運用



- 1940頃 = 天皇制内大臣府、①情報局、②外務省（大使館・領事館）、③大本営・陸海軍参謀・憲兵隊（在外武官事務所）、④内務省特高・外事、⑤司法省思想検察、準アクターとして満鉄調査部、特務機関、中野学校など。
- ゴルゲ事件適用法規 = ①治安維持法（1925年制定、1928年目的遂行罪及び41年3月10日改正）、②国防保安法（1941年5月10日施行）、③軍機保護法（1899年施行、1937年及び41年3月10日改正）、④軍用資源秘密保護法（1939年3月25日施行） = 防諜1940年体制の法制化

社会主義・異国思想は伝染病である

——優生思想・異民族蔑視と「転向」

- 感染症対策の基本は、古くから検疫と隔離であった。それは、治安維持の思想対策と似ていた。まともな治療法も薬もない時代には、悪魔払いなど神に祈るしかなかった。中世のペスト（黒死病）では、ユダヤ人が犠牲になり生け贄とされることがあった。マルクス『資本論』には、過酷な労働環境のもとで労働者が伝染病の犠牲者になる様子が描かれた。ドストエフスキーの小説では、コレラなど伝染病の恐怖と革命思想の流布がメタファーで描かれた。
- 20世紀の冷戦時代、米国FBIのフーバー議長は、共産主義を伝染病ときめつけた。戦後冷戦のもとになるジョージ・ケナンの「封じ込め Containment」政策自体、「検疫と隔離」の感染症対策の発想にもとづいていた。もともとはロシア革命と第一次大戦後のフランスの対ソ政策、「cordon sanitaire（防疫線）」構築を意味する。つまり近代の感染症対策と思想対策は、治安維持の二つの柱として、相互に干渉し合って発展してきた。伝染病の検疫と言論思想の検閲は、相似形であった。

山縣有朋、大逆事件、治安維持法：検疫と検閲

- 日本では陸軍と内務省の生みの親、山縣有朋の「社会破壊主義論」（1910年）が、明治天皇に建白され、社会主義は「天賦神聖ノ国体」と「民族道徳ノ根本」に「爆弾」を投げつけるものだから「全力ヲ尽クシテ其ノ根絶」を計らなければならない。そのためには「言論字問ノ自由」を犠牲にしても「集会結社演説著作」を取り締まるべきである。「不穏な思想は「萌芽ノ間ニ摘去」しなければ、国家の大患となる恐れがある」「社会主義根絶の第一要義は「完全ナル国民教育」の普及にある。「個人主義ヲ排除」して穏健な思想、国民道徳を涵養しなければならない」（魚住昭「山縣有朋の意見書」『現代ビジネス』2018年11月25日）。<「防疫」としての国民教育、「治療」としての「転向」>
- 起草者は穂積八束といわれるが、ちょうど幸徳秋水の大逆事件の頃で、社会主義や無政府主義を国体日本への「劣等」掘井一摩は、「伝染病対策と『危険思想』対策との間の構造的類似性は、明治日本において、伝染病の防疫が警察を主体として行なわれていたことと深くかかわっている。1938年に厚生省が誕生するまで、医療行政は警察を管掌する内務省の所轄であり、衛生の実務は警察が担ってきた」とする（堀井『国民国家と不気味なもの』新曜社、2020年）。
- 内務省は、地方統治と警察が大きな仕事であった。1925年の治安維持法、その後の戦争に至る戦時治安体制・思想統制には、外部からの細菌・ウィルス流入を阻止する検疫・防疫体制とのメタファーが使われ、内務省の仕事となった。外国人とその「スパイ」の摘発と隔離・追放、国内の反「国体」思想の取締と「転向」強制、とりわけ伝染病・結核に対する防疫・感染政策と社会主義・共産主義に対する言論・思想政策は、一体だった。感染対策は内務省地方局から1938年に分化した厚生省と陸軍軍医学校防疫研究室、思想感染対策は内務省特高警察・外事警察、陸軍憲兵隊が直接に担うが、その思想的・政策的基礎づくりは塩野季彦・太田耐造ら司法省の思想検察が担った。

太田耐造 = ゴルゲ事件時の代表的「思想検事」



萩野富士夫『思想検事』（岩波新書、2000年）によると、太田は

「1920年東大法学部卒、35年中国の思想情勢を視察。39年司法省刑事局第六課長となり、アジア太平洋戦争開戦前後の『思想検察』を指揮。41年の治安維持法改正や『思想検察規範』制定の中心人物。42年『満洲国』の招聘で司法部刑事局長となり、その『思想検察』の確立や法制の整備につとめた。45年司法省会計課長、46年甲府地裁検事正となる、公職追放」、1941新治安維持法で「検事が捜査の中枢機関」「司法警察官は単に斥候的任務」を画策

（思想検事について、黒井千次『流砂』）

（日本法理研究会については吾妻光俊「日本法理の探求：戦時法理論の回顧」『一橋論叢』16、1946.10）



内務省特高・司法省日本法理：思想的感染対策

- 内務省は、旧憲法下の日本では内政・民政を担う行政機関であり、強大な権限の集中から「官庁の中の官庁」、「官僚勢力の総本山」、「官僚の本拠」などと呼ばれる最有力官庁であり、設立当初から国民生活統制の中核となったが、太平洋戦争（大東亜戦争）の敗戦後、GHQの指令によって解体・廃止された。
- 内務省の所管は大正期には地方行政（地方局）・警察（警保局）・土木・衛生（衛生局）・社会・労働（社会局）・神道（国家神道）の分野に限られるようになったが、戦前は各省の総合出先機関的性格が強かった道府県庁を直接の監督下においていたため、地方行政を通じて各省の所管事項にも直接または間接に関与し内政の中心としての地位を保ち続けた
- 1938年（昭和13年）1月11日には外局であった衛生・社会両局が厚生省として分離されたが、当時の人事は内務省と一体のものとして運用されていた。

「制のる国察中締鉅透規て控菌とも身出来ることを自覚」とも述べていた。」「(林尚之「近代日本の思想司法」立

→「外謀」の決定的重要性、「みことのり・さと
り」による「国体への回帰」、法源としての17条憲
法・武家法

(1881-憲兵隊,1928-特高＝出先1938-保健所?、
1872-内務省警保局,司法省1928思想檢察＝1932軍医
学校防疫研、36關東軍防疫部、47予研・97感染研)

仮説＝新「1940年体制」論＝感染政策と 国家安全保障・治安政策の再結合か？

- 1940年体制論＝経済史（野口悠紀雄・岡崎哲二他）、戦時食糧管理法、産業報国会、賃金統制、長期金融等。――「総力戦体制」が戦後高度成長にプラスに作用した連続説。
- 敗戦後感染・伝染病政策はこれに従属し、GHQ・PHW指導下の厚生省再編、結核予防法・保健所法・国民優生法・国民体力法・国民医療法等が戦後民主化に組み込まれ優生保護法・国民法等再編・継承、防接種法等に再編・継承、
- ただし1980年代結核撲滅で高齢化社会と高度医療にシフトし、世紀末には周辺化した。
- 政治的には紀元2600建国祭、幻のオリンピック・東京万博、大政翼賛・八紘一宇、「日本法理」に安撫・維持・軍改、正資戦王主義、大蔵・通産・自治法体制、後民王官僚の人氣で警察・防衛は日陰。
- しかし1980年代、中曽根内閣以後旧内務省の中核・警察官僚の台頭。
- 日米同盟強化から自衛隊海外派遣・新安保経済策を「防疫」と、米軍基地衛生でオミクロン株感染を許した。

1940 (敗戦・占領) 1980 (冷戦崩壊) 2020
近衛大政翼賛会 中曾根内務官僚内閣 安倍・菅内閣
紀元2600建国祭 日米同盟 新安保法制

(陸海軍) 731部隊 安保自衛隊・日米同盟 海外派兵 台湾有事対中軍備
<1932 軍医学校防疫研 36関東軍防疫部・軍馬防疫廠 40防疫給水部>

(大蔵・商工) 戦時統制経済 高度成長 新自由主義 (財務・経産) 失われた30年

(内務省) 治安維持法 (自治)戦後民主主義(警察}新内務官僚 国家安全保障会議
<1900治安警察法 1925治安維持法 28「目的遂行」41全面改定・国防保安法>

(厚生省) 国民衛生・防疫 公衆衛生・高齢化医療 (厚労) 国策防疫・ワクチン
<1897伝染病予防法 1919結核予防法 1938厚生省 1940国民優生法 (断種法)>

国防>経済>防疫

米国>経済>感染>治安

日米>治安>経済>感染

防疫と防諜——岡本行夫の場合

コロナで亡くなった「霞ヶ関の異分子」が沖縄に向き合った背景として、「自伝＝遺書」中に父の731部隊体験

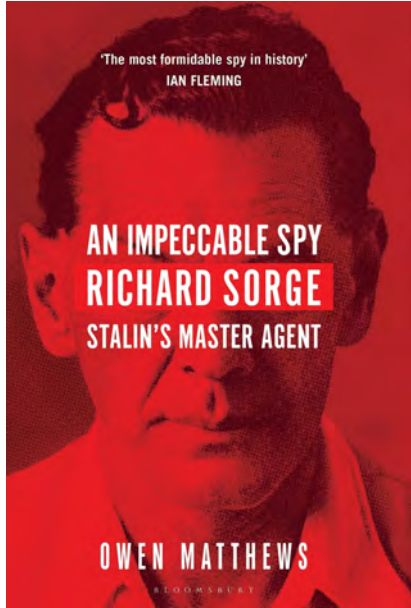


- 本書で私が最も驚いたのは、農林官僚だった岡本氏の父親が細菌兵器を研究する陸軍731部隊で勤務していたという事実を明かしたことだ（32～37頁）。この話は岡本氏から聞いたことがなかった。

- 〈「パパは人を殺したことがあるの？」／父親の形相は忘れられない。／「二度とそんな馬鹿なことを聞くな、家から放り出すぞ！」／彼は泣き叫ぶ僕を家の外に追い出してしまった。〉（97頁）。二度と戦争を起こしてはいけないというのが岡本氏の強い想いだ。この想いを観念ではなく、受肉（現実化）させようと岡本氏はこの世を去る瞬間まで努力していたのだ。

（さとう・まさる 作家／元外務省主任分析官、新潮社『波』2022.5）→キャリア外交官にとっての細菌戦問題

スターリンは1932年に日本の生物兵器開発を知った



英文ベストセラーのマッシュューズ『ゾルゲ伝』（みすず翻訳中）に、米インディアナ大黒宮広昭教授の研究として、ノモンハン時小松原道太郎中将の1927年エストニアでのハニートラップ以来ソ連スパイ説との関係で、1932年にスターリンは日本側の生物兵器計画を知っていたという説紹介（これまではクラウゼン供述中の1937年説）。

「1927年以降に小松原が赴任した先では、東京への誤報、ソ連情報部へのリークが相次いだ……小松原は1932年から34年までハルビンの日本特務機関長を務めていた。ポドルスクにあるロシア国防省中央文書館（TsAMO）には、小松原のハルビン駐在と同時期の、日本、中国、満州国に関する詳細な情報があるが、それ以前も以後もほとんどない。1933年、モスクワに日本の機密電報が届き、日本がソ連から中国東方鉄道を奪取する意図があることが暴露された。

また、無名の諜報員による秘密資料には、1932年8月、ハルビンで行われた東京参謀本部ロシア課長による、対ソ連兵器としての生物兵器の重要性に関する恐ろしい報告が含まれていた。この報告は非常に憂慮すべきもので、トウハチエフスキー元帥、スターリンは自ら読んだという。」

2 コロナ・パンデミックと細菌戦の影

世界は医療、日本は防疫：なぜ自宅療養か

「この国は患者を治すための医療ではなく、日本社会を感染症から守る国家防疫体制でコロナに対応している。

保健所が核になる、検査の主体であり、陽性者を感染症指定医療機関と調整して入院させるのも、濃厚接触者をフォローするのも保健所だ。データは感染研が一元的に管理する。

明治以来の旧内務省・衛生警察の基本思想がそのまま生きる、通常医療とは別の枠組からなっている。先進国では日本以外にない」（上昌広「世界は『医療』、だが日本は『防疫』」『サンデー毎日』2021年9月5日）。

→？（加藤）731部隊以後、世界は国家的治療・公衆衛生へ

防疫と治療の違い「防疫ばかりに重きを置く偏ったコロナ政策が医療を苦しめている」 わだ内科クリニック 和田真紀夫 2022年2月8日MRIC by 医療ガバナンス学会

- ①同じコロナウイルスを相手にしていながら、医療と防疫とでは月とすっぽんほど全く異なる視点でウイルスに対処する。まず対象としている相手は**医療では一人の人間**であって複数の人間をまとめ治療することなど決してないが、**防疫は社会全体**を対象としている。
- ②コロナ対策の柱であるワクチン、検査、治療薬にしても医療と防疫では全く違った見方をする。**防疫では多くの人にワクチン**を打たすことに視点を置くが、**医療ではその個人がメリットがあるかどうか**の視点で考える。
- ③ **防疫では社会全体の感染率**を導き出すために検査をするが、医療では**その個人が感染しているかどうか**を調べるために検査をする。
- ④ 医療では当然その**個人の病気を治すために治療薬を投与**するが、**防疫では多くの人が治療することで社会全体の感染拡大抑制に役立つかどうか**の視点で治療薬をみる。
- ⑤ 医療ではその**個人の治療のために患者さんを入院させ、病気がよくなれば退院**させるが、**防疫では感染者を隔離するために感染者を入院させて、その人がほかの人に病気を移さなくなったかどうかで退院を決める。すべての人に共通する入院基準とか退院基準など**というものは医療の世界ではありえないのだ。

厚生省と厚生技官行政＝尾身茂・大坪寛子ら

- 1938年の厚生省の誕生そのものが、戦争と関わる。もともと現在の感染症法（1998年）のもとになる伝染病予防法は、1897年に制定され、医療制度を含めて、内務省が担当する国内治安の一環。「帝国」日本が海外に進出し、軍人・兵士が海外に移動することで、未知の病原菌・ウィルスを持ち込んだ。伝染病予防法は、いわゆる「十種伝染病」、コレラ、赤痢（疫痢を含む）、腸チフス、パラチフス、痘瘡、発疹チフス、猩紅熱、ジフテリア、流行性脳脊髄膜炎およびペストの10種の急性伝染病の予防に。
 - 日中戦争さなかの1938年、近衛内閣のもとで、国民の体力向上、結核等伝染病罹患防止、傷痍軍人・戦死者の遺族対応等のために、内務省から衛生局及び社会局が分離されるかたちで、厚生省が設置。初代厚生大臣は文部大臣と兼任の木戸幸一だが、戦時体制の一環で、実質的推進者は陸軍軍医総監・医務局長の小泉親彦。小泉は、第三次近衛内閣・東条内閣では厚生大臣、敗戦時割腹自殺。
 - この小泉親彦が、同時に細菌戦・人体実験を進めた石井四郎隊長以下関東軍防疫給水部＝731部隊の後ろ盾。つまり、国内での結核予防法、国民優生法（戦後の優生保護法の前身）・国民体力法等での兵力増強と、「外地」での生物兵器開発・細菌戦実行は、一対。1936年の関東軍防疫給水部（731部隊）、関東軍軍馬防疫廠（100部隊）の創設も、小泉親彦と石井四郎等生物戦を狙う軍医たちの計画による。敗戦後に陸海軍も内務省も解体されたが、厚生省は、GHOの指導のもとで復員庁の復員業務を受け継ぎ、同時に陸海軍病院を国立病院に再編し、731部隊の旧軍医・技師の復権を許した。
 - 731部隊の戦後への隠蔽・免責・復権過程を研究してきた加藤は、①広島・長崎の原爆被害調査、②伝染病・感染症対策、③医学教育・医師養成制度改革、④医薬制度改革・病院医院整備、⑤日本ブラッドバンク（後のミドリ十字）など医療産業・医薬ビジネス育成、⑥米軍細菌戦406部隊及び朝鮮戦争への協力・動員、の6つの回路から、厚労省医系部局、国立感染症研究所、「専門家会議」等に系譜的・人的につながる。
 - 厚労省に入省した医系技官約250人は、国民の健康よりも自分たちの都合を優先させる。この存在自体が必要ない。厚生労働省は、法令事務官（事務系公務員）とノンキャリアの人たちで回していける。医系技官が存在するがゆえに仕事で作られ、医療に無用な口出しをし、そして崩壊を促す。この集団は“ペーパードクター”であり、専門家ではない。それが専門家であるような意見を述べて政策決定に関与する。そもそも、公務員試験を受けていない、法律の素養がない。（村重直子『さらば厚生省』講談社、2010）
- 「日本の医系技官の場合は、医師免許を持っているのに、直接患者と接することはしない（上昌広）。

日本モデルの特異性

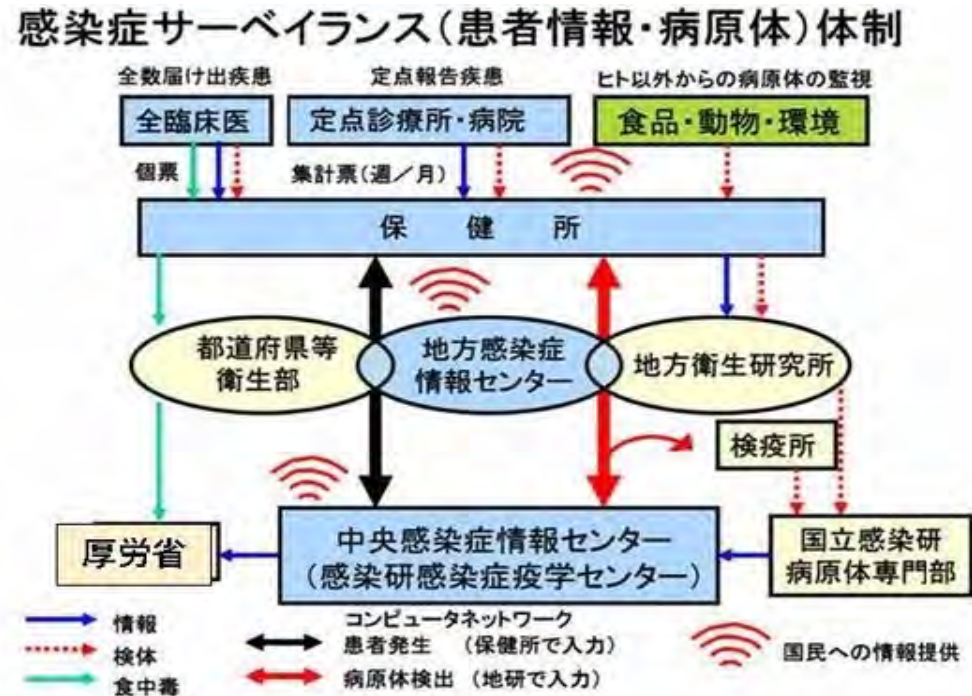
①絶対的PCR検査不足（37度5分4日間！）、②行政検査とクラスター対策、③感染医療体制貧困、無症状者切り捨て、④補償なき自粛・休業要請、⑤保健所中心医療システム崩壊、「自宅療養」という名の棄民政策、⑥同調圧力・感染者差別・自粛警察、⑦ハンマー＆ダンスの欠如、⑧後手後手の政治・格差・選別

感染症対策の王道＝検査、検査、検査そして隔離
(WHO)

- ・欧米のロックダウン・医療崩壊
- ・台湾・中国・韓国・シンガポール・ニュージーランドの封じ込め

予い京態度、感材止 危利
たのて東事付の器防がナ私
っ見れ池急しン・染係口、
あ会さ小緊いイ制感関コ先、
で皇定るのなラ体のなの優
玉天予ま相言所床府っ導策
目・に始首助健臨政よ王政如。
の日夏に倍の保の、の邸済欠
程来、後安学一場度と官経の
日の係直、科所現程と・し
治て関定迫の究療の「相策さ
政しの決脅」研医染肅首無な
のと疫期の家生、感自倍為ま
閣賓検延「門衛制内き安無の
内国・ク鎖専方体院なて・へ
倍の止ッ封「地査・償じ手者
安席禁ピ市の一検査補総後弱
の主航ン都時所・配「手的
初平渡リ「当究成員、か後会
＝近国才の、研作人入の、社
本習中京事が症計・投た識、
日国と東知言染統足政っ認欲
・中定た都宣感染不財あ機私

- ・ 経由の行政検査・クラスタ保健所一探し



731部隊の亡霊としての感染研・専門家会議 のデータ独占・秘密主義

「日本モデル」の問題性を絞り込むと、

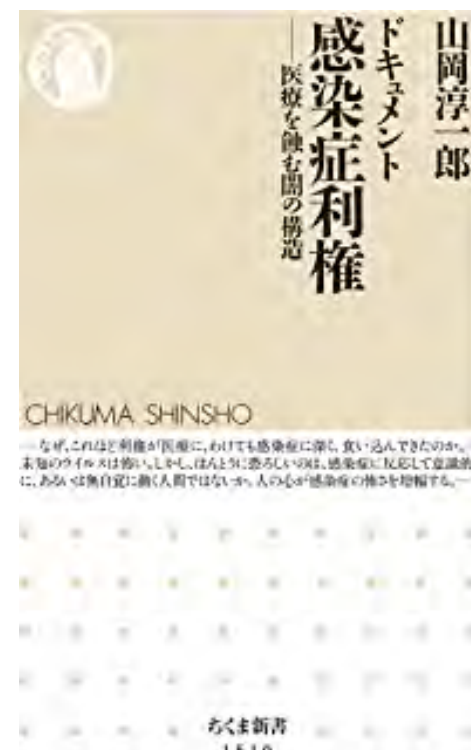
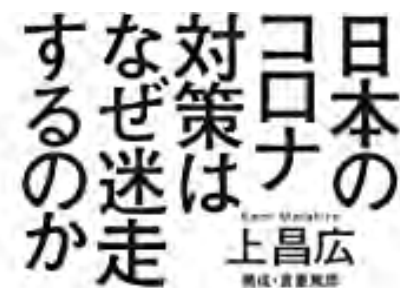
「専門家会議」メンバーの出自が、①「国立感染症研究所」（感染研←予研・軍医学校防疫部）、②「東京大学医科学研究所」（医科研←伝研）、③「国立国際医療研究センター」（医療センター←陸軍病院）、そして④「東京慈恵会医科大学」（慈恵医大←海軍）である伝統と人的系譜によって、

①PCR検査限定・クラスター方式と感染研・保健所の「行政検査」データ独占体制

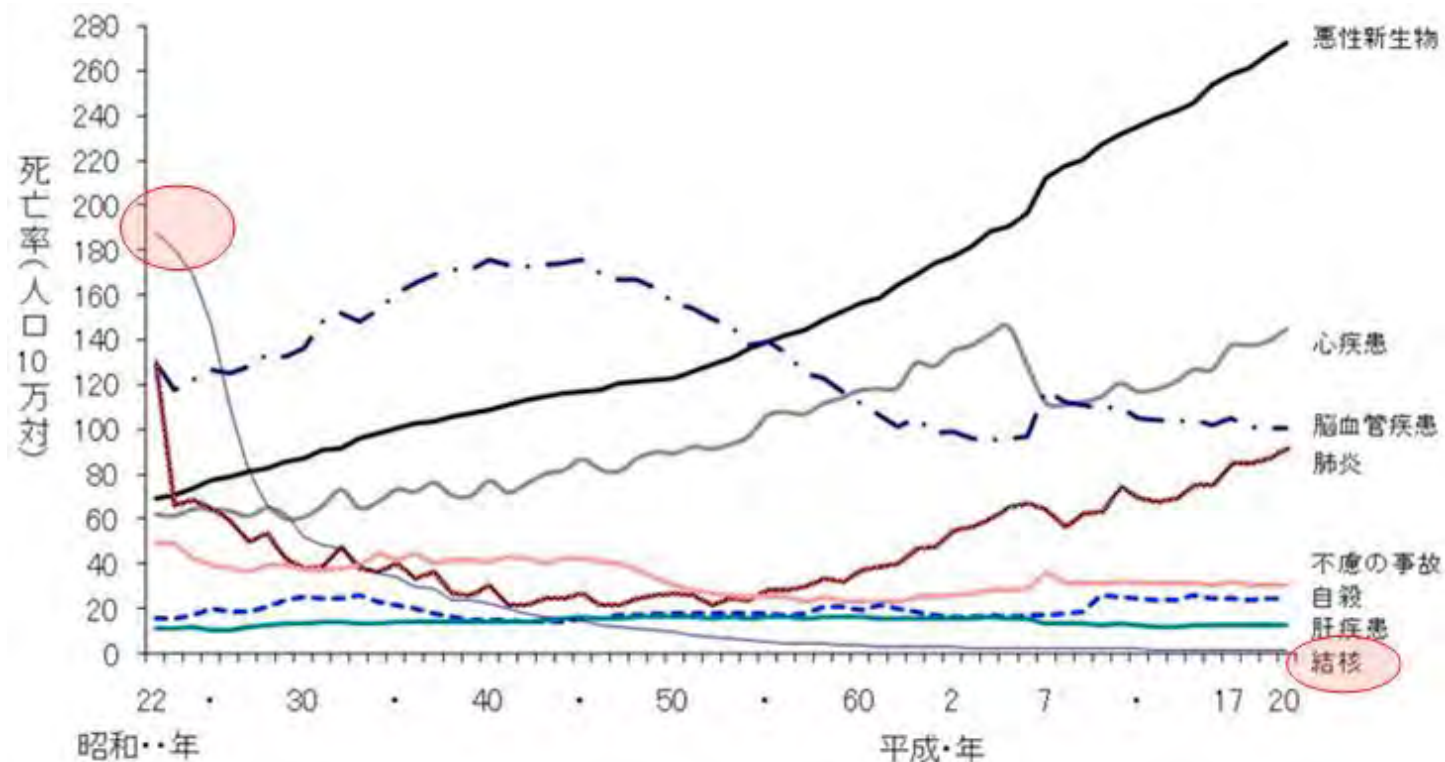
②閉鎖的・秘密主義の日本感染症医学の衰退（サンプル数・論文数の貧困）

③感染症用病床、医師・看護師・保健師、人材と予算の不足

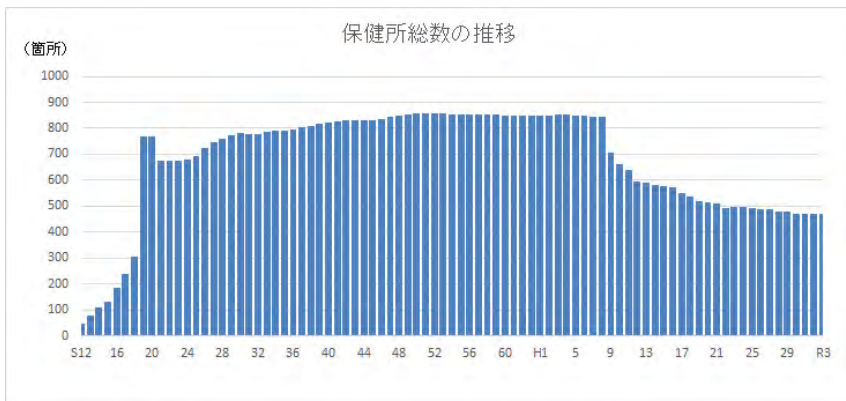
●上昌広医師による731部隊の伝統＝①情報不開示体質（秘密主義）、②自前主義（国産ワクチン）、につけ加えるとすれば、③日本中心主義・優生思想（自粛警察・外国人差別の精神主義）＝内務省「衛生警察」の延長上での「治療ではなく防疫」



『厚生省50年史』は、**高度成長時代を通じて**日本の厚生行政は成功し大きく飛躍したとして、「**国民病**」結核の**極小化**や**世界に誇れる「長寿社会の実現」**を挙げ、そこから成人病・老人医療・生活習慣病対策の重点化（医師不足・高額医療拡大）と社会福祉・社会保障の一環としての医療費削減、感染症ベッド保健所縮小、すなわち**感染症と感染症対策の周辺化**が見えてくる。常石敬一によれば、この結核対策でも**1951結核予防法によるBCGワクチンの有効性は疑わしく**、むしろ同時期**沖縄で実施された公看（公的看護）制度による治療の効果の方が高かった**（常石『結核と日本人』岩波書店、2011年）。



減らされた保健所は今



●1937年（S12年）保健所法が制定され、「国民の健康指導と体力向上」のために保健所が設置された。その後、1947年（S22年）、戦後GHQの介入により保健所法が全面改訂され、地方庁に衛生部が設置された。その際、警察が担っていた食品衛生と急性感染症予防業務は保健所に移管された。現在の保健所業務を大まかにいうと(1)医療・医薬品、(2)感染症、(3)難病、(4)精神保健福祉、(5)食品衛生、食中毒の検査、(6)環境衛生、(7)生活衛生である。

保健所数は45%減 職員数は19%減



● 保健所は地域保健法に基づき都道府県や政令指定都市や特別区に設置されており、保健医療や公衆衛生の役割を担っている。また、感染症法では、法定感染症が発生した場合、医師は保健所に届出をする決まりになっており、今回のコロナ対応も当然のごとく保健所が行い、患者の病状、濃厚接触者の確認、入院調整等、全て保健所が行った。しかし、今回のコロナ対応でこれまでの保健所システムの限界が露呈してしまった。

新型コロナ・ボード(NHK2304)

ジョンズ・ホプキンス大学は、2023年3月10日にデータの更新を終了しました。

世界感染者

6億8千万

(20Cスペイン風邪5億人)

死者

658万

(スペイン風邪5千万-1億)

致死率

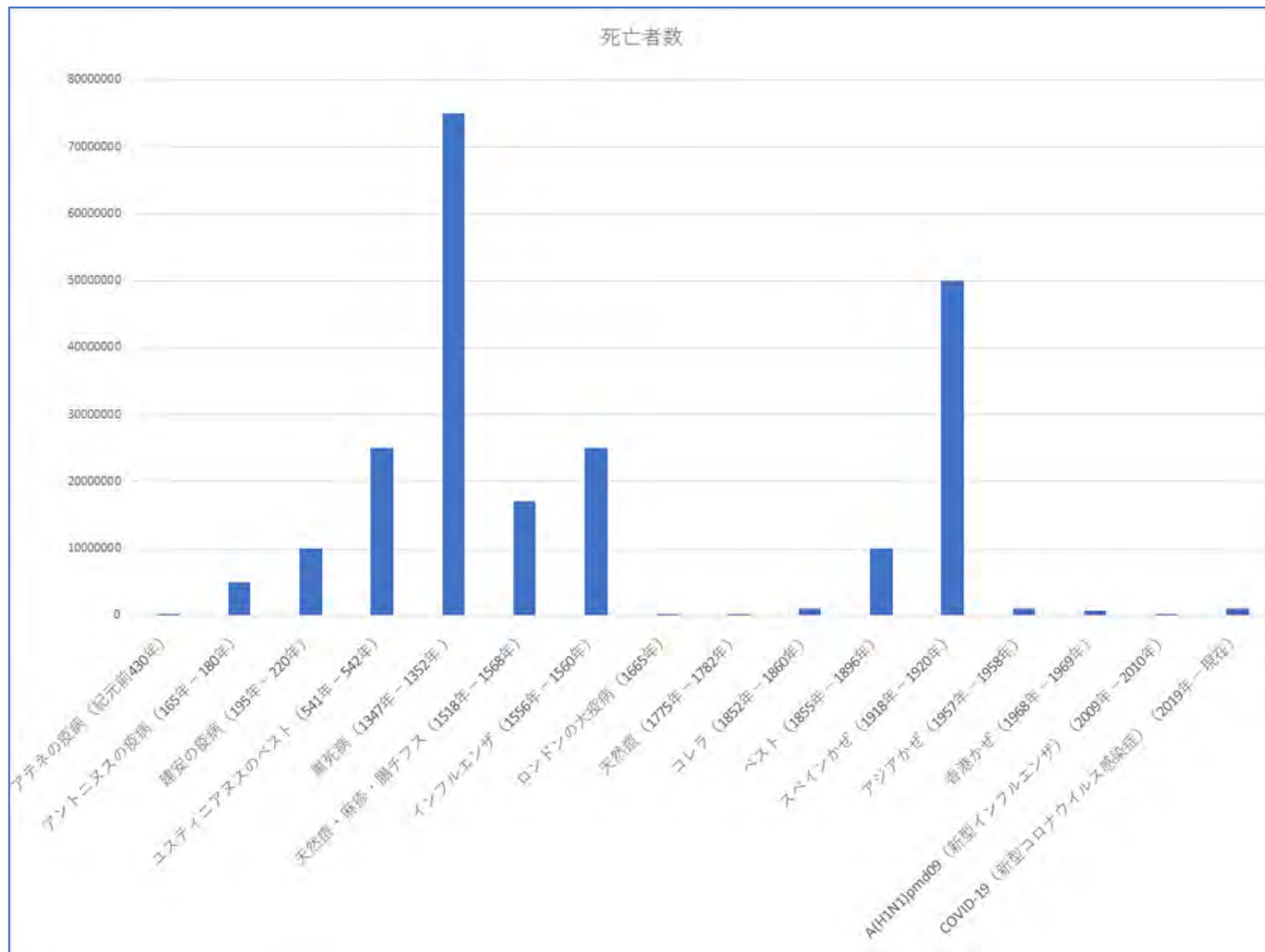
1.00% (スペイン風邪10%以上)

発生国

230

日本累計 4月3日 感染者3347万、死者73,967





地球史人類史の中の感染症
七億人感染、七百万人死亡へ

治療なき防疫 = 対策も治療もいい加減

- ・**<アベノマスク>**安倍元首相が2020年4月に全戸配布した布マスク。一部に汚れや虫の混入が確認された。約1カ月遅れの6月には既に市場に織り込まれており、効果がない疑いを含めた調査で、約2億9000万枚を調達し、21年度末までの希望者は品配不足だったと検品対象の15%に当たる約7100万枚を処分した。
- ・会計検査院がアベノマスクの調達平均単価は約139円だったと明らかにしたが、**単価の詳細や契約の経緯は今も不明**
- ・「高い」「安い」「不安なくない」「傾いた」との意見が相次ぎ、「論議する判断材料に乏しい」と世論調査の結果、興業衛生材料は、本貌を隠すために、加藤中佐綿力内閣受忠屋注重を元が医薬品の陸軍衛生用品と偽装していたことが明らかになった。

- 「アビガン」開発中止 重症化抑える効薬獲得られず**
 2020年4月、新型コロナウイルスの緊急事態宣言を初め、発令した時の記者会見で、安倍晋三首相は、**「（現時点で）感染拡大を抑えることができない」と**述べ、**「（アビガン）の効果は不明で、副作用のリスクも大きい」と**述べ、**「（アビガン）の使用は慎重に検討する」と**述べた。
- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医療機関に入院している患者の数が急増している。政府は、**「（アビガン）の効果は不明で、副作用のリスクも大きい」と**述べ、**「（アビガン）の使用は慎重に検討する」と**述べた。
- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医療機関に入院している患者の数が急増している。政府は、**「（アビガン）の効果は不明で、副作用のリスクも大きい」と**述べ、**「（アビガン）の使用は慎重に検討する」と**述べた。

ワクチン接種は成功したか？



日本	309.17回
ベトナム	271.4回
韓国	250.21回
中国	244.84回
イタリア	243.64回
ドイツ	230.55回
フランス	227.67回
ブラジル	225.92回
イギリス	224.04回
バングラデシュ	209回
アメリカ	202.85回
タイ	198.94回
トルコ	178.75回
イラン	178.19回
メキシコ	175.02回
インドネシア	161.27回
インド	155.7回
パキスタン	148.35回
フィリピン	147.66回
ロシア	128.93回

Our World in Dataより 4月3日更新

- 「たチと例引をと
クとがは報続えれ
ン」ではき与さ
チい原あ告きるて
ンう因りさウ重い
をこでまれク大ま
接と亡せてチなす
種はくんいン懸。
し、な。まの念」
た必っ接す接は
後すた種が種認厚
にし」後、休め生
亡もとの現制ら省
なワう亡占影ない
っくことで響い
- 「遺
亡をる
死明ま
で解始市
変かで西
急の開愛
体た公・
容つ非知
になが愛
後く委す
種亡査き
接せ調で
ンな故聴
チが事傍
ク妻療は
ワ「医族
2022.11
- 「副
置される
接種で
チン接
クチン
ワクチ
ナワク
コ口ナ
反応疑
め国民
は泣き寝入り
- 山岡 淳一郎：(東洋経済オンラインから厚労省
2023「重篤な副作用の報告」18(医療機関から障害・8000件
への入院超え)2022年12月、診療した医師ら
入を(2022例の患者と
亡は病り)

背景 コロナ予算の使われ方

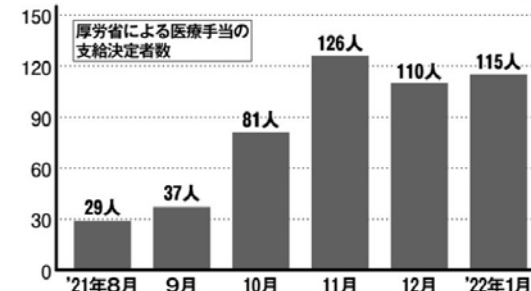
- “コロナ予算”は77兆円、国民1人あたり61万円
- “コロナ予算”は、新型コロナの流行が本格化した令和2年度だけで、**総額77兆円。国民1人あたり、61万円**という計算になります。東日本大震災の復興予算が、10年あまりの総額で約32兆円であることから、**“コロナ予算”**がいかに異次元の規模かがわかります。**ワクチン接種、国のマスク配布、Go To イート。感染症の拡大防止**から経済対策まで、使い道は多岐にわたります
- 全国の自治体へ4.5兆円巨額予算はどう使われた？
- 人口8千の三重県御浜町。臨時交付金の額は、およそ5億円。町の年間の財政規模の10パーセントにのぼっています。町が交付金で購入したのが、グラウンド整備専用のトラクター。360万円をすべて交付金でまかいました。
- 77兆円のコロナ予算。財源のほとんどは国債、国の借金です。将来世代に負担を先送りする形になっています。私たちは何を教訓としていけばいいのか。

• 新型コロナ ワクチン7783万回分廃棄 契約数の9%、2120億円相当が

- 政府はコロナワクチンとして、米ファイザー社製3億9900万回分▽米モデルナ社製2億1300万回分▽英アストラゼネカ（AZ）社製1億2000万回分（後に6230万回分契約解除）▽米ノババックス社製1億5000万回分（1億4176万回分契約解除）をそれぞれ調達した。このうち、厚労省は従来型ワクチンの有効期限が切れたとして、廃棄数量がモデルナ社製で約6390万回分（自治体見込み含む）、AZ社製は約1358万回分（同）に上ることを明らかにしている。
毎日23. 3. 18)



接種後の副反応疑い約3万件に対し 救済措置はごくわずか



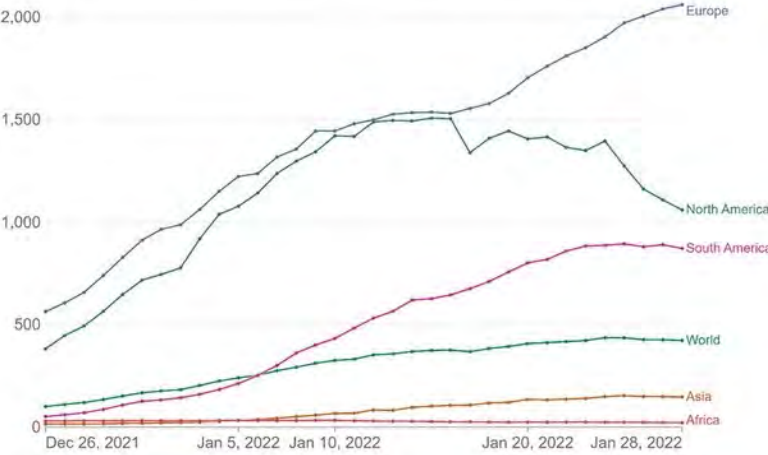
今年1月28日までに申請があった969件に対し、認められたのは515件。そもそも接種後の副反応疑いは3万件以上報告されており、救済された人はほんの一部であることが明らかになっている。



貧困な医学論文

Daily new confirmed COVID-19 cases per million people

7-day rolling average. Due to limited testing, the number of confirmed cases is lower than the true number of infections.

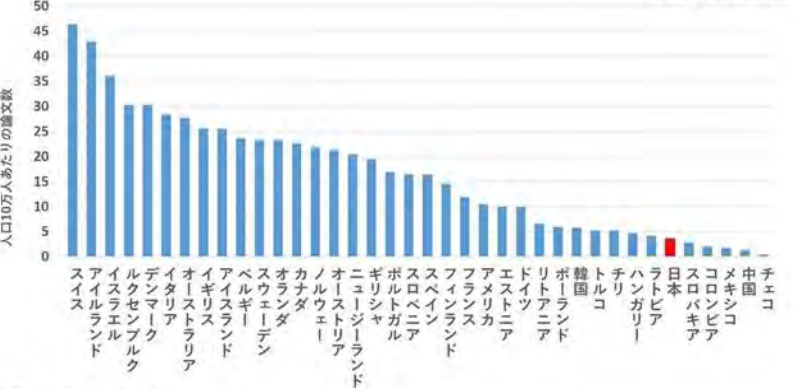


Source: Johns Hopkins University CSSE COVID-19 Data

CC BY

OECDと中国の人口10万人あたりのCOVID-19関連論文数

2021年12月12日現在



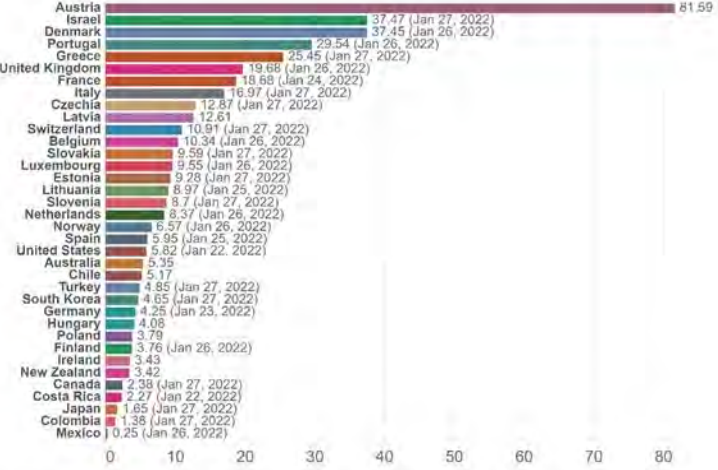
参照: PubMed, United Nations

※Costa Ricaは2021年から加盟したため比較対象外とした。

医療ガバナンス研究所 山下えりか

Daily new COVID-19 tests per 1,000 people, Jan 28, 2022

7-day rolling average



Source: Official data collated by Our World in Data

Our World in Data

CC BY

【COVID-19】2021年における2大医学誌（LANCET, NEJM）掲載論文数

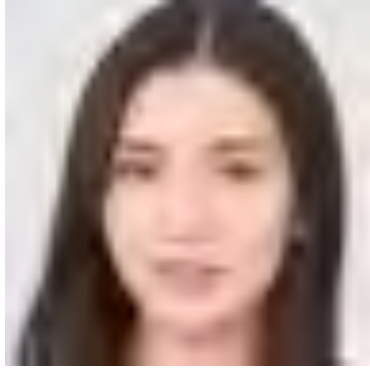
2021/12/14現在

順位	筆頭著者の所属国	THE LANCET 計150報 (内COVID-19計41報)				The New England Journal of Medicine 計208報 (内COVID-19計49報)				小計 計358報 (内COVID-19計90報)				合計
		ワクチン・抗体	薬・治療	その他		ワクチン・抗体	薬・治療	その他		ワクチン・抗体	薬・治療	その他		
1	イギリス	11	3	4		5	3	0		16	6	4		26
2	アメリカ	1	2	2		13	6	0		14	8	2		24
3	イスラエル	2	0	0		5	0	1		7	0	1		8
4	多国籍	0	0	3		1	0	0		1	0	3		4
5	カナダ	0	0	0		1	2	0		1	2	0		3
5	南アフリカ	0	0	0		3	0	0		3	0	0		3
5	中国	0	1	2		0	0	0		0	1	2		3
6	アフリカ	0	0	2		0	0	0		0	0	2		2
6	アルゼンチン	0	0	0		0	2	0		0	2	0		2
6	オーストラリア	1	0	1		0	0	0		1	0	1		2
6	スペイン	1	0	0		0	1	0		1	1	0		2
7	インド	1	0	0		0	0	0		1	0	0		1
7	シンガポール	0	0	0		1	0	0		1	0	0		1
7	スウェーデン	0	0	1		0	0	0		0	0	1		1
7	チリ	0	0	0		1	0	0		1	0	0		1
7	デンマーク	0	0	1		0	0	0		0	0	1		1
7	ドイツ	0	0	0		1	0	0		1	0	0		1
7	トルコ	1	0	0		0	0	0		1	0	0		1
7	ノルウェー	0	0	0		1	0	0		1	0	0		1
7	ブラジル	0	0	0		0	1	0		0	1	0		1
7	ベルギー	0	0	0		1	0	0		1	0	0		1
7	ロシア	1	0	0		0	0	0		1	0	0		1
計		19	6	16		33	15	1		52	21	17		90

参照: THE LANCET (ARTICLES)、NEJM (ORIGINAL ARTICLES)

医療ガバナンス研究所 山下えりか

世界一のワクチン接種率と情報戦



南雲 香織 - Kaori Nagumo
[@nagunagumomo](#)

mRNAワクチンを3回接種すると、平均して寿命が25年縮むことが研究により判明した。つまり、平均寿命を大きく引き下げるほど若い世代が死んでいるということです。

[午後0:15 · 2023年4月2日](#)

- **18.2万**
- 件の表示

ワクチンデマを大量拡散... 謎の女性インフルエンサーは実在しない「AIアイコン」だった。ツイートには多数の不自然な点も

新型コロナウイルスのワクチン接種に反対する立場から発信を続けているTwitterアカウント「南雲香織」。フェイクニュースや誤情報などの疑義言説を大量に発信しているアカウントの正体、そして目的とは。

旗智 広太 [BuzzFeed News Reporter, Japan](#)

[by Kota Hatachi](#)



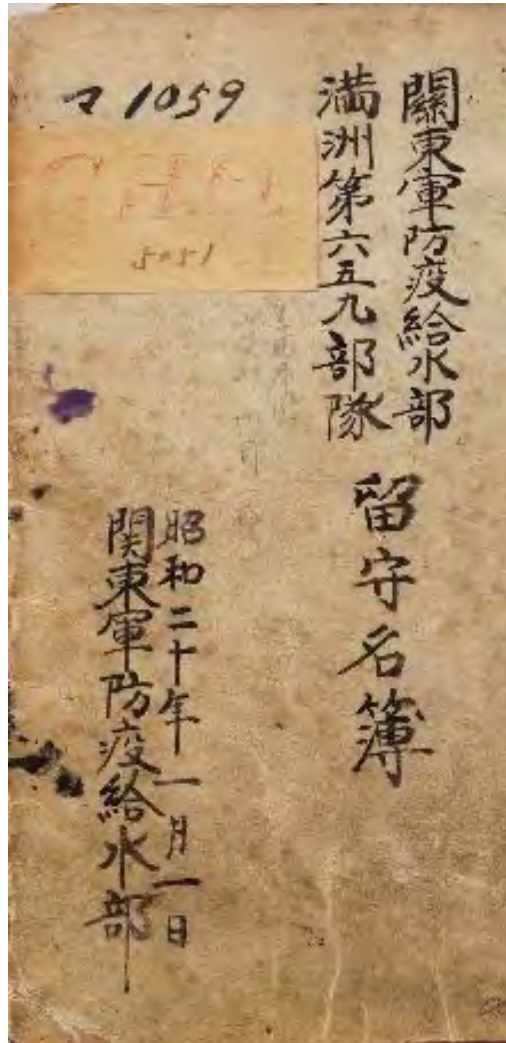
3 GHQと731部隊・厚生省、100部隊・農林省の戦後

①2017夏NHK「731部隊の真実
エリート医学者と人体実験」の衝撃
= 文字・画像資料から音声・映像資料による
1949年ハバロフスク裁判被告証言の信憑性の確認



②西山勝夫編731部隊「留守名簿」公開の画期的意義

厚労省2300/3560人から「留守名簿」実名3607人へ



- 戦時中に中国で人体実験を繰り返したとされる旧日本軍の「731部隊」の隊員ら3607人の実名が記された名簿が国立公文書館から開示されたと、滋賀医科大学の西山勝夫名誉教授が15日までに記者会見して明らかにした。
- 西山氏は「隊員ほぼ全員の実名が明らかになるのは初めて。研究に役立ててもらうため、今後ホームページで公開する」としている。
- 開示されたのは、731部隊を中心とする「関東軍防疫給水部」の「留守名簿」。1945年1月1日付で作成され、軍医52人、技師49人、看護婦38人、衛生兵1117人などの実名や階級、連絡先が記載されている。
(共同2018.4.15)
- 「731部隊」はハルビン近郊平房本部の秘匿名
- 「659部隊」は関東軍防疫給水部全体の名称

「留守名簿」公開で見えてきた731部隊撤退の3ルート

①平房本部1300人早期帰国・免責復権（石井四郎・二木秀雄ら）

②牡丹江・林口支部等1000人ソ連抑留（ハバロフスク裁判56帰国、一部は1950撫順・太原収容所へ移送され瀋陽裁判57帰国）、

③大連支部/防疫隊等1000人中国居留民社会潜入・引揚（安東洪次・長友浪男他？）

① [厚生省1963]1945.8 平房本部約1300人帰国,

ハイラル165,牡丹江200,孫呉136,林口224,大連250 = 敗戦時約1000人ソ連抑留？ 総計2300-2600人？ {1981 森村誠一『悪魔の飽食』時の推計・通説}

② 1982国会厚生省答弁3559, 2012厚生労働省公式発表 = ~~3560~~人3607 （残りの約1000人は第③ルート？）

• 軍人 ~~1339~~1315人 将校131人（医・理・農・薬・獣医）

• 准士官18人、下士官~~163~~99人、兵~~1027~~1083

• 軍属 ~~2150~~2192人 技師50人（京大・東大等助教授級医学者）、技手~~197~~189人 <以下、恩給対象外> 雇員~~1270~~1218人/ 傭人~~633~~629人（他に中国人・朝鮮人「劳工」）

• <囑託> = 東大・京大・慶大ほか当時の日本医学界の重鎮網羅（戸田正三ら）

③ 幹部隊友会1955「精魂会」242人・少年兵57「房友会」数十人、計300人の名簿、他の3000人以上の氏名は不明だった

④2018「留守名簿」公開で+47=3607名の実名公開、女性382人

帰国ルート1 平房本部石井四郎以下1300人

A 1945年8-12月「隠蔽」：GHQ諜報部G2ウィロビー少将庇護下に

8.10 大本営：証拠抹消帰国命令（朝枝中佐）
「徹底爆破焼却・徹底防諜」

8.11 石井四郎中將の隊員「3つの掟」

①731軍歴をかくすこと

②あらゆる公職につかぬこと

③隊員相互の連絡は厳禁

8.26 鉄道・船で帰国、増田知貞「会報」
「一時帰休・自宅待機」，物資隠匿

9.20 金沢仮本部・石井「通報」予備役編入取
消 = 731部隊存続

・千葉県稲毛陸軍留守業務部・太田澄大佐、
佐藤重雄経理少佐が隠匿物資・給料・退職
金・連絡網管理？

11.20 金沢・二木秀雄雑誌『輿論』刊行

天皇制世論調査・原子力

8.15 陸軍軍務部「特殊研究処理要綱」

8.25 石井・参謀本部交渉

9-11 米軍第一次サンダース調査

10 内藤良一・増田知貞尋問、亀井貫一郎

11 G2ウィロビー少将・有末精三が石井の身柄管理、
マルタ人体実験と細菌戦実施以外は供述開始、マッ
カーサーのサンダース免責調査黙認、C I E ソープ
准将等が戦犯容疑の石井探索

12 陸海軍解体、復員省

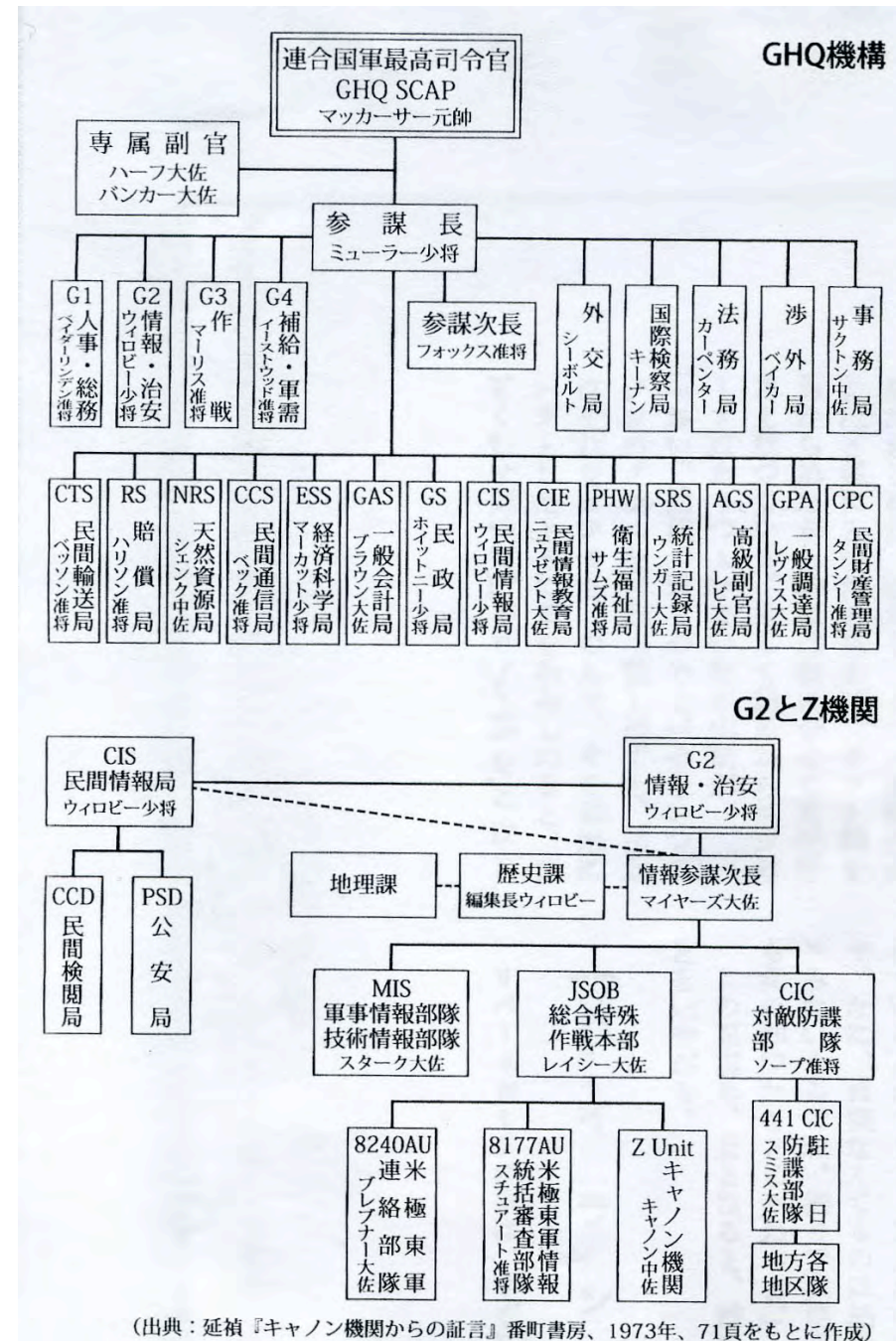
・石井の100人程度のスリム化構想挫折

・鎌倉会談、12月末「北野政次中將へ連絡事項」80
人配布

（「マルタ」生体実験、ペストノミ細菌兵器使用以
外はGHQに協力）

GHQ占領支配

- GS中心非軍事化・民主化vs.G2反共諜報部隊
- CIS・CIC（治安・警察・検閲・謀略）もG2ウィロビー傘下
- 戦犯追及はIPS（国際検察局）・LS（法務局）も
- 軍医はPHW, ESSにも
- G2ウィロビーが731情報独占・4次の来日調査団管理、IPS・LSを妨害
- 旧参謀本部情報将校（有33末・河辺・服部ら）もG2歴史課・地理課でウィロビー傘下、反共再軍備
- PHWサムズ准将はG2ウィロビーの親友（なのにDDT革命、医療民主化・福祉の父）



B - 1 45-46年「免責」第一段階

石井・北野中将は現れたがあくまで防衛用研究

- ①46.1-3 米軍第二次トンプソン調査団
- ②C I C ソープ准将追究に隠しきれず G 2 管理下で石井四郎を北野政次と共に尋問させる
- ③トンプソンは疑ったが「実戦使用なし」報告
- ④5月ソープ准将帰国でC I C も G 2 ウィロビーの傘下、参謀本部・服部卓四郎が中国から帰国し、有末機関・河辺機関と共に G 2 歴史課、ウィロビーの右腕になり対ソ・対共産党諜報、731 問題管理
- ⑤一般隊員の一部には給与・退職金支給

B - 2 1946「免責」第二段階

国際検察局 I P S ・ 法務局 L S 捜査を G 2 が妨害

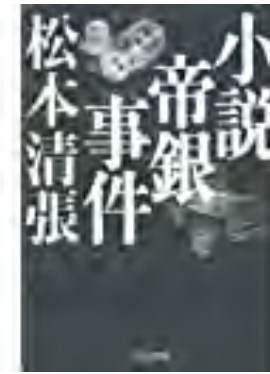
- ① 46.3 極東国際軍事裁判（東京裁判） 国際検察局（I P S）モロウ大佐等の調査に G 2 が関係者・資料独占・妨害＝ウィロビーほか「絶対的管轄」のもとで石井四郎ほか起訴されず
- ② GHQ/LS（法務局）スミス中尉らの人体実験調査・内藤良一ら尋問に G 2 ウィロビーが介入し、BC級戦犯捜査も中止、九大米兵解剖事件へ
- ③ 二木秀雄上京、米軍迎合46.8大衆時局ゴシップ雑誌『政界ジープ』誌（-56.3, 左派の『真相』に対抗）、当初は民主化・非軍事化、48から反共反ソ

B - 3 47年「免責」第三段階 米軍へのデータ提供とバーターでの免責

- 47.1 ソ連捕虜川島清少将・柄澤十三夫少佐証言をもとにソ連側がIPSを通じて石井四郎・菊池齋・太田澄尋問要求
- ワシントン3省調整委 (SWNCC)人体実験データ独占指令・G 2 立会のうえソ連尋問に応ぜよ
- C 47.4-6第3次フェル調査団、亀井「鎌倉会議」でデータ提供免責20人、石井も全面協力
- 47.10-11第4次ヒル=ヴィクター調査団が50人訊問・石川太刀雄ら実験データ25万円で米国独占
- 国務省の反対で文書免責はないがIPS/極東国際軍事裁判不訴追確定、
(帝銀事件後) 48.11結審

帝銀事件の意味：731部隊解体

- ①48.1 帝銀14人毒殺に松井蔚名刺と青酸化合物
- ②48.3警視庁がG2に軍関係捜査協力要請
- ③731関係者二木ら個別協力、石井犯人示唆
- ④48.8.3 G 2 有末・服部が軍青酸ルート中止命令
- ⑤48.8.21警視庁は名刺ルートで平沢貞通逮捕
- ⑥一般隊員も731関係者犯行と直観、広域捜査
- ⑦幹部提供リスト捜査で失職者も、給与遅配・未払い・連絡網崩壊への不満、石井と他幹部不和、隠匿物資払底、事実上の731部隊解散
- ⑧ 南方軍防疫給水部・パスツール研究所総務部長→厚生省の松井蔚にはアリバイがあったが、戦時スマトラ（ジャワ？）で「土人二百数十名殺害」供述（倉内喜久夫とともにロームシャ破傷風事件関与）



C 「復権」：PHWサムズ准将、厚生省の731医師重用

DDT革命・医療民主化の陰で

- GHQ・G2への協力 = 石井四郎・北野政次・亀井貫一郎・新妻清一・内藤良一・二木秀雄ら

反省なき医学・医療現場への復帰、
例外としての秋元寿恵夫（「知っ
てるつもり 731部隊と医学者た
ち」 2000 0.00-315,4:00-5:10,8:00

- PHW（公衆衛生福祉局）サムズ准将と厚生省による医療民主化・改革への便乗

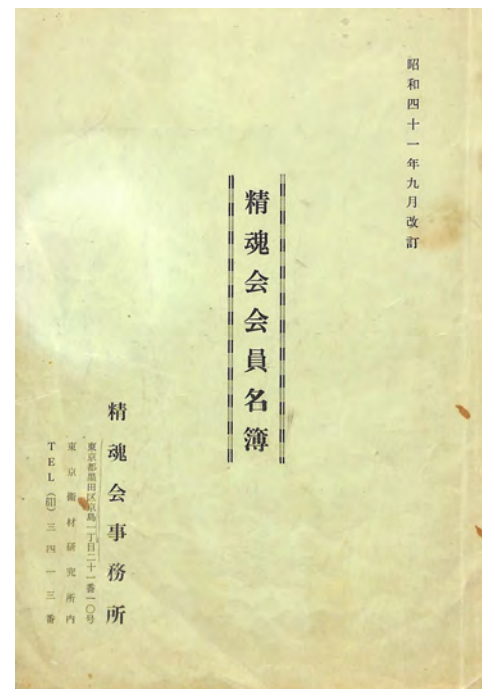
- ①原爆被害調査
- ②伝染病・感染症対策
- ③医学部改革・医療改革
- ④医療再建、病院・医院
- ⑤医薬産業・医療ビジネス
(1950ミドリ十字薬害エイズ)
- ⑥米軍406細菌戦部隊



米軍へのデータ提供とバーターでの免責後「精魂会」

- 46年IPS,LS調査をG2隔離・妨害
- 47.1 ソ連捕虜川島・柄澤証言をもとにソ連側がIPSを通じて石井・菊池・太田尋問要求
- ワシントン3省調整委 (SWNCC)が人体実験データ独占指令・G 2 立会のうえソ連尋問に応ぜよ
- C 47.4-6第3次フェル調査団、亀井「鎌倉会議」でデータ提供免責20人、石井も全面協力
- 47.10-11第4次ヒル＝ヴィクター調査団が50人・石川太刀雄実験データ25万円で米国独占
- 国務省の反対で文書免責はないがIPS/極東国際軍事裁判不訴追確定、48.11結審
- 1950 日本ブラッドバンク開設（内藤良一・二木秀雄・宮本光一＋神戸銀行他で設立（ミドリ十字→薬害エイズへ）

- 1955-隊友会「精魂会」
- 多磨霊園「精魂塔」建立、毎年8月
隊友会 = 56年名簿=187人,66年=234人,73年=242人(軍医・技師・下士官クラス) 程度、仲間内慰霊他に元少年隊員「房友会」、航空班員「波空会」、東大系は「同心会」)



帰国ルート2 シベリア抑留60万人・6万人死後帰還、 731・100部隊関係者はハバロフスク裁判（1949末）

- **ハバロフスク裁判**＝世界大戦後の1949年12月25日から12月30日にかけてソ連のハバロフスクの士官会館で6日間行われた旧日本軍に対する軍事裁判の通称。主にソ連への進攻計画としての関特演、日本の対ソ攻撃、731部隊などが裁かれた。
- 極東軍事裁判終結後のソ連に**よる**戦犯裁判＝天皇訴追を極東委員会に提案
- 米英は拒否し、日本メディアは黙殺、時局雑誌『レポーター』50.3、『真相』50.4が特集報道、二木秀雄の『政界ジープ』50.4が反論



山田乙三（関東軍司令官・大将）強制労働25年

梶塚隆二（関東軍軍医部長・軍医中将）25年

高橋隆篤（関東軍獣医部長・獣医中将）25年

佐藤俊二（関東軍第5軍軍医部長・軍医少将）20年

川島清（第4部/細菌製造部部長・軍医少将）25年

柄沢十三夫（第4部細菌製造課課長・軍医少佐）20年

西俊英（教育部長兼孫呉支部長・軍医中佐）18年

尾上正男（731部隊梅林牡丹江支部長・軍医少佐）12年

平桜全作（100部隊研究員・獣医中尉）10年

三友一男（100部隊隊員・軍曹）15年

菊地則光（731部隊海林/牡丹江支部支部衛生兵・上等兵）2年

久留島祐司（731部隊林口支部衛生兵・実験手）3年

• 731関係者を含む約千人は中国送還、瀋陽太原裁判

• 『細菌戦用兵器ノ準備及ビ使用ノ廉デ起訴サレタ元日本軍軍人ノ事件ニ関スル公判書類』1950年、1992NHK「現代史スクープドキュメント」で訊問調書現物放映、2017音声放映

帰国ルート3 「邦人に混入」して引揚＝厚生省はすべてを知っていた

1963.3.2厚生省援護局「関東軍防疫給水部略歴」安東洪次、長友浪男、倉内喜久夫

- 略歴「大連支部は停戦後その儘「ソ」軍に利用され中国長春鉄道大連研究所と改称し勤務せしめられたる後一部は邦人に混入一部は安東、「ハルビン」、北支、山東方面に移送せらる」
- 満鉄大連衛生研究所＝実は731大連支部長安東洪次（「留守名簿」2等技師＝中佐待遇、1893-1976）は、この「一部は邦人に混入」＝49?早期引揚の代表例。731歴を隠し「所員そっちのけに連日ソ連司令部に日参して哀訴嘆願し」急いで帰国したという石堂清倫らの回想とも合致。帰国後東大伝研教授・武田薬品顧問・日本実験動物学会設立、日本モンキーセンター



- 略歴「S20.6.15ペスト防疫隊を編成大連支部に編入」「ペスト防疫隊は奉天において武装解除されたる後居留民会所属の病院を開設し21年8月国府軍の接收によりその大部は同年帰国す」
- 「留守名簿」長友浪男（軍医少佐、1913-99）の「S20.6関東軍第三方面臨時防疫班 通称号満14000部隊臨時防疫班」「88陸病診療科長、奉天市日本人居留民会鉄西伝染病院開設院長、21年10月1日 全東北日僑善後連絡総処胡蘆島弁事処衛生科付」。これで731軍歴をロンダリングして、帰国後厚生省就職、公衆衛生局精神衛生課長、北海道副知事、札幌オリンピック組織委



コロナ報道 永寿病院のルーツは731部隊という文春砲

- コロナ禍で浮かび上がる感染研、永寿病院と「七三一部隊」の数奇な縁

小池 新 2020/04/17 文春オンライン

- 戦後も「元七三一部隊員」のネットワークが形成されていた
- 人体実験で殺害された数は2000人とも3000人とも
- 最近、「感染研のルーツは七三一部隊」とする情報がネット上で流れている。それは正確ではないが、戦前・戦中の伝説が「七三一」と深いつながりがあったのは事実だ。
- 731部隊隊友会「精魂会」名簿に、元部員の所属先として「永寿病院」という名前があること。名簿では、元七三一部隊大連衛生研究所航空二課所属の倉内喜久雄院長と主事、技術員の3人が所属している。

- 今回の新型コロナウイルスで院内感染が発生。患者、医師ら160人以上が感染し、入院患者24人が死亡した現・永寿総合病院（東京都台東区）のことだ。[最終的に214人感染・患者43人死亡]



第3ルート：南方軍部隊への転籍後終戦＝731部隊 大連支部細菌科長・倉内喜久雄の場合

1956永寿総合病院創設者・倉内喜久雄



倉内喜久雄 明30
医博 埼玉縣北葛飾郡幸手町一
三七八〇株式会社日本生物科学
研究所社長②慶大医大五卒③
細菌、血清④満鉄大連衛生研究
所血清科長、米國留学（カリフ
オルニアペスト、発疹チフス、リ
ケツチヤワクチンの研究）満鉄
大連衛生研究所細菌科長、マラ
イ医大教授⑤日本細菌学会⑥ペ
スト又は脚腕疽予防ワクチンの
製法（特許一二二八五八）▽満
鉄賞、浅川賞（ペストに関する
研究）シヤワ科学技術賞（シヤ
ワにおけるペスト撲滅の科学的
増進に関する研究）▽ペストに
関する研究一四回（細菌学雜
誌四九三）戦後日本におけるペ
スト問題（日本医学雑誌）

院長略歴
明治30年12月9日、福井県今立郡上池田村に生まる。大正15年3月、慶応義塾大学医学部卒業後、大連の満鉄衛生研究所に勤務し、昭和7年12月、医学博士となる。
昭和11年9月、米国カリフォルニア大学医学部、次いでハーバード大学医学部細菌学教室に留学しハーバード大学リサーチ・フェローに任ぜらる。
昭和13年6月陸軍技師となり同17年、ジャワ、バンドン・バーストール研究所長となる。戦後、株式会社日本生物科学研究所社長となりペニシリン、ストレプトマイシン製造に従事し、同27年辞任後、同年社団法人ライフ・エクステンション倶楽部会長となり、31年永寿病院長となり現在に至る。
昭和19年勲四等に叙せられ瑞宝章を受ける。ペストに関する研究により昭和5年満鉄總裁賞、同12年微生物学会浅川賞、満鉄技術功労章、同19年にジャワ軍監部科学技術賞を受け、同37年7月に日本学士会名誉会員となり、同年11月日本学士会アカデミア賞を受ける。

コロナ禍で浮かび上がる感染研、永寿病院と「七三一部隊」の数奇な縁
戦後も「元七三一部隊員」のネットワークが形成されていた（文春オンライン2020/4/17）

・731同窓会＝精魂会1966名簿に、倉内喜久雄院長、主事川上益、技術員川上清一の3人登録

・日本工業倶楽部・交詢社をバックに著名人死亡記事分析のうえで1953ライフ・エクステンション・センター、**日本初の人間ドック**（『永寿総合病院十年の歩み』1966）

永寿総合病院のコロナ・クラスターを探求すると = 3つの報道と倉内喜久雄の二つの略歴から

- 1 慶大病院から医師、患者も転院して感染（2020年3-5月）
- 2 成人病・老人病院から台東区地域総合病院へ
- 3 創立者・初代院長・倉内喜久雄は731部隊出身（文春砲）
- 4 731部隊幹部隊友会精魂会名簿に3人の永寿病院勤務者
- 5 戦後財界に支えられたライフエクステンションセンター
- 6 満鉄大連衛生研究所では血清課長・ワクチン担当
- 7 石井四郎に評価された「倉内ペストインムノーゲン」
- 8 南方軍防疫給水部パスツール研究所で破傷風人体実験も（NHK「感染症に斃れた日本軍兵士」2021夏）
- 9 戦後すぐは日本生物科学研究所でGHQのワクチン作り

永寿病院創設者 倉内喜久雄の公的履歴

(1948年文部省監修『現代日本科学技術者名鑑・医学編 (下)』)

倉内喜久雄

明30

医博 埼玉縣北葛飾郡幸手町一
三七八①株式会社日本生物科学
研究所社長②慶大医大一五卒③
細菌、血清④滿鉄大連衛生研究
所血清科長、米國留学(カリフ
オルニアペスト、発疹ナフス、リ
ケツチヤワクチンの研究)滿鉄
大連衛生研究所細菌科長、マラ
イ医大教授⑤日本細菌学会⑥ペ
スト又は脾脱疽予防ワクチンの
製法(特許一二三八五八)▽滿
鉄賞、浅川賞(ペストに関する
研究)シヤワ科学技術賞(シヤ
ワにおけるペスト撲滅の科学的
措置に関する研究)▽ペストに
関する研究一四回(細菌学雜
誌四九三)戦後日本におけるペ
スト問題(日本医学雜誌)

永寿総合病院の沿革

- 医師・倉内喜久雄（1897年12月9日 - 1979年10月3日）により、高齢医学の発展とその普及を目的とした。倉内は中島久万吉から日本工業倶楽部会員を通じて賛同を募った。賛同者による社団法人は長寿保持の意味を含めたユニークな名前にしようとして「ライフ・エクステンション倶楽部」となった。資金は債券（病床債券、1口30万円、年利6%、元本2年据置の7年満期）を発行して調達し、土地建物は日本水産の本社が丸の内に移転したこの空きビルとなっていた南稲荷町114番地（住居表示により現在は元浅草2-11-7）の建物を同社より買収。全面改修して利用する計画を立てたものの、改修費用が7000万円の高額に上ることが判明し、いったんは開院が危ぶまれた。工事については協和銀行などの紹介により地元の日本電設工業が引き受け、1956年の紀元節（2月11日）に開院日を定めて急ピッチの工事が行われた。病院名も長寿保持の意味を含めて「永寿病院」と決まった。
- 当初の病床数は一般105床、結核55床。診療科は内科・外科・産婦人科・精密総合検査（人間ドック）。医師の人事は倉内の出身大学である慶應義塾大学の医学部に依存する形になった。複式簿記を導入して原価計算を行い、公認会計士の監査を受けるなど企業会計の手法を開院時から導入している。のち3月1日に耳鼻咽喉科、6月1日に眼科が加わり、1959年6月17日には交通外傷などの治療に不可欠な整形外科を設置した。1981年、道路を隔てて隣接する元浅草2丁目7番納豆会館の南側に新館を建設。
- 2002年2月、同じ区内の旧西町小学校跡地へ新築（400床）、移転した。東京都立台東病院や日本私立学校振興・共済事業団下谷病院の廃止により病床や産科医療の一部を失った台東区は、地域医療の担い手としての永寿総合病院を支援している。

ペスト・破傷風研究者としての倉内喜久雄

- 第一段階は、慶応大学医学部から満鉄衛生部、大連の満鉄衛生研究所に就職しての研究である。
- [破傷風「アナトキシン」の抗元性に就て:破傷風豫防注射](#) 倉内 喜久雄 中央獣醫會雜誌 41(7) 1928 p.647-655
- [溶血性連鎖状球菌毒素ニ關スル研究](#) 倉内 喜久雄 細菌學雜誌 1927(376) 1927 p.291-297
- [溶血性連鎖状球菌毒素ニ關スル研究](#) 倉内 喜久雄 細菌學雜誌 1927(380) 1927 p.587-597
- [溶血性連鎖状球菌毒素ニ關スル研究](#) 安東 洪次,・倉内 喜久雄 細菌學雜誌 1930(409) 1930 p.199-205
- [溶血性連鎖状球菌毒素ニ關スル研究](#) 安藤 洪次・,倉内 喜久雄,・尾崎 吉助 細菌學雜誌 1927(376) 1927 p.259-290
- [破傷風アナトキシン」ノ抗原性ニ就テ](#) 倉内 喜久雄 細菌學雜誌 1930(414) 1930 p.541-560
- 博士論文は、「満洲医学雑誌」掲載論文を中心にしたものである。
- [満洲医学雑誌 12\(4\)](#) 満洲医学会 1930-04 内蒙古「ペスト」ノ疫學的研究(「ペスト」ニ關スル研究 其一) / 倉内喜久雄 / p569~596 (0055.jp2)
- [満洲医学雑誌 12\(5\)](#) 満洲医学会 1930-05 内蒙古ニ於ケル「ペスト」ノ流行ト該地ニ棲息スル細菌類トノ關係(「ペスト」ニ關スル研究 其二) / 倉内喜久雄 / p671~700 (0017.jp2)
- [満洲医学雑誌 12\(6\)](#) 満洲医学会 1930-06 生物學的性狀ノ差異ニ依ル「ペスト」菌「パイフエル」氏假性結核菌及諸種出血性敗血症
- 医学博士になった後の倉内喜久雄の業績は、大連の満鉄衛生研究所が731部隊大連支部に移管される時期にかかっている。
- [「ペスト」ノ尿診斷ニ就テ\(會\)](#), 満洲醫誌, 23卷, 1號, 昭10年7月, 倉内喜久雄,・春日忠善・板倉 日本泌尿器科學會雜誌 24(8) 1935-08 p.647
- [「ペスト」菌體抗原ノ二元性ニ就テ](#) 倉内 喜久雄,・本間 博,・春日 忠善,・福田 憲六 細菌學雜誌 1937(493) 1937 p.121-147
- [「ペスト」菌體特異免疫元屑\(S. I. F\)ヲ以テ免疫セルS. I. F馬免疫血清ノ「ペスト」治療效果](#) 倉内 喜久雄・奇 龍肅,・春日 忠善,・土井 光之助,・阿達 万吉 細菌學雜誌 1937(493) 1937 p.194-210
- [倉内氏「ペストインムノーゲン」人體豫防接種成績](#) 倉内 喜久雄,・春日 忠善,・本間 博,・奇 龍肅 細菌學雜誌 1937(493) 1937 p.168-193

田中淳雄少佐尋問録

(1) ペスト防疫の実施(P225)

満州には従来「ペスト」常在地あり 毎年数十乃至数百の患者の発生を見る該ペストの軍隊への侵入防止の為地方機関と協力(「ゆう」注 「地方」とは「軍の外」つまり「民間」を意味する戦前の用語) ペスト防疫に従事せり その実施要領は

(イ) 捕鼠殺鼠の励行 各戸より強制的に鼠の供出並買上実施(一九四四年二千万頭供出)(「ゆう」注 明らかに過大。誤記か?)

(ロ) 防鼠工事の実施並指導 防鼠溝、清潔整頓

(ハ) 予防接種、「ペスト」常在地附近部隊に五月六月二回実施
「ペストインムノーゲン」(倉内) 生菌ワクチン(春日)

(ニ) 「ペスト」発生時は現地に出張し右三方法を強化すると共に交通遮断、検疫、検診、時には家屋の焼却、被服類の消毒等を実施す(P226)

(太田昌克『731免責の系譜』所収)

南方軍防疫給水部での人体実験

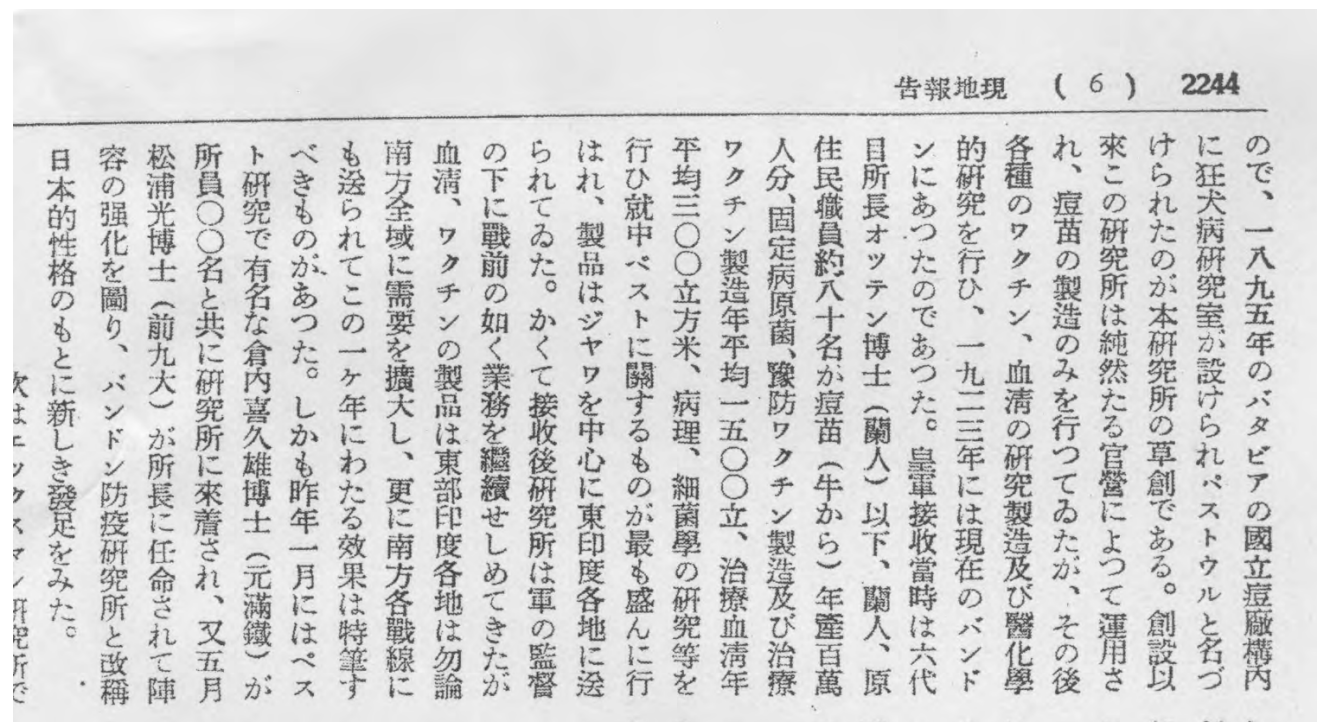
2021年8月22日BS1スペシャル「感染症に斃れた日本軍兵士」

・「衛生兵を殺して特效薬を…」 100歳の元兵士が語った“感染症に斃れた日本軍”の実態

松村高夫・慶應義塾大学名誉教授が番組で解説する。「731部隊の人脈がそのまま南方軍給水部の創始者になっている。大連の731部隊支部ではワクチンの研究が盛んだった。大連にいた倉内喜久雄は、バンドンの（南方軍給水部の支部の）初代の所長になっていた」

・同盟時事月報1944/2/14

43/1 バタビアの南方軍防疫給水部
パスツール研究所長にペスト研究
で有名な倉内喜久雄赴任





・ 1944年8月、ジャカルタの収容所で、ワクチンを接種したロームシャ約400人が破傷風で多数死亡した。日本軍は、インドネシア人の研究者が毒を入れた謀略事件だとして逮捕し、処刑した。その研究者・モホタル博士は、インドネシアでは著名な感染症の研究者だった。戦後になって、冤罪だったとして名誉回復を求める声が、遺族や研究者らから上がっていた。

・ 731部隊の人脈がそのまま南方軍給水部の創始者になっている。大連の731部隊支部ではワクチンの研究が盛んだった。大連にいた倉内喜久雄は、バンドンの（南方軍給水部の支部の）初代の所長になっていた。そこには帝銀事件の証拠名刺の持ち主であった松井蔚（まついしげる）も関わっていた。731部隊大連支部でワクチン製造の中心であった倉内喜久雄がパスツール研究所長であった。

・ この謎の事件の背景には何があったのか。犯人として処刑されたインドネシア人医師、破傷風で命を落としたロームシャ、そして遥か離れた中国大陸で七三一部隊の人体実験に供された〈マルタ〉をつなぐ日本軍の謀略が、いま明らかになる。

倉内は戦後は、一時、獣医たちと共に日本生物科学研究所（日生研）でワクチン製造に関わったが、GHQ・古河財閥を通じて財界に近づく。永寿病院の正式名称は、公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属 永寿総合病院である。このライフエクステンション研究所、が自分たちの雑誌「高令医学」を出していた。

- 過去5年間国内4大新聞紙上に現れた死亡記事に依る著名人の死因調査研究__倉内 喜久雄 他 高令医学 1(1) 1957-01
- 過去5ケ年間国内4大新聞紙上に現われた死亡記事による著名人の死因調査研究-2-__倉内 喜久雄 他 高令医学 1(2) 1957-04
- 過去5年間国内4大新聞紙上に現れた死亡記事による著名人の死因調査研究-3-__倉内 喜久雄 他 高令医学 1(2)
- ライフエクステンション倶楽部 ライフ・エクステンション研究所 1957-04
- 対談 高令医学から見た栄養の諸問題 / 柳金太郎；郷千枝子；倉内喜久雄 / 20 (0013.jp2) 高令医学 1(4)
- 五五〇歳長寿説 老人日に寄せて / 倉内喜久雄 / 14 (0008.jp2) 週刊サンケイ 3(40)(137) 扶桑社 1954-09
- 永寿総合病院十年の歩み 永寿総合病院, 1966

731部隊の戦争犯罪・戦後犯罪

- ① 人体実験——抗日匪賊（中露蒙人）数千人を「特移扱」とし、「マルタ」とよんで細菌・凍傷・梅毒まで生体実験・データ収集
- ② ペストノミ等を入れた陶器爆弾を中国各地で投下、コレラ菌を撒布し、数万人の犠牲者（1925ジュネーヴ議定書違反の国際犯罪、細菌戦国家賠償請求裁判東京地裁2002判決は事実認定としては認める）

- ③ 米国との細菌戦・人体実験データ提供の秘密取引により、石井四郎以下軍医・技師の医師たちも極東国際軍事裁判（東京裁判）不訴追・免責、公職追放も免除
- ④ 軍として正式解散せず秘かに存続、医師・医学者は医学界で復権・出世、1955隊友会「精魂会」結成、多磨霊園「精魂塔」建立、軍人恩給、一般隊員は「一時帰休命令・自宅待機」で秘密保持
- ⑤ 人種差別・弱者差別の731風優生医学継承、優生保護法行政への積極的関与（長友浪男、二木秀雄、戸田正三）

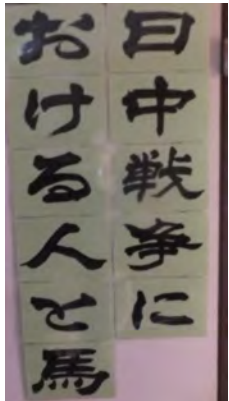
4 731部隊・100部隊の遺産・交点としての「ワクチン村」

731部隊・100部隊生き残り領域としての「ワクチン村」に寄生する医学者・獣医学者・製薬産業

- ① 第一波最大の院内感染クラスター、永寿総合病院創設者倉内喜久雄の戦後、731部隊ペスト・南方軍破傷風ワクチン製造から日本生物科学研究所（日生研）へ
- ② 関東軍馬防疫廠100部隊研究の進展（小河孝ほか）、100部隊→日本獣医学会・農林省→日生研などワクチン産業へ
- ③ 731大連支部長・安東洪次の帰国と東大伝研・実験動物学会を通じた復権、ワクチン製造・創薬に不可欠の動物実験
- ④ 人獣共通感染症に対する医学と獣医学の共同は続く

731部隊研究の欠落 = 医学ばかりでなく 獣医学・薬学・農学・理学等の問題

- ①100部隊の帰国ルート
- ②「留守名簿」関係者、看護婦等女性隊員
- ③医学博士ばかりでなく獣医学・薬学・農学・理学・生物学・植物学・昆虫学等の隊員の戦後
- ④731部隊医師は厚生省ルートで復権だが、加藤久弥岩手大学長・山本治新潟大農学部長ら、100部隊獣医師は農林省管轄で無傷、GHQ・LS調査も一時的で九大米兵解剖事件もありパス
- ⑤日本獣医学会・大学獣医学部の戦後
 - ・生物兵器開発：→安倍内閣・加計学園問題（映画「新聞記者」）



●明治に入り、大量の、そして優秀な「軍馬」が必要に
なっ配禁を止してしまっ盛ん結果、「南部馬」の純血種の保護

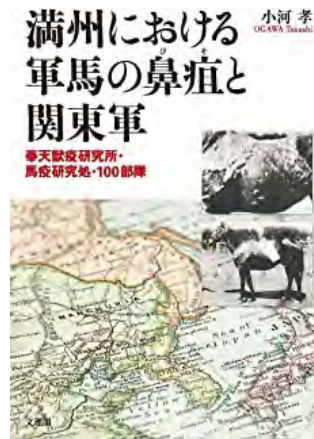
軍馬が戦地へと送られるまで

- ①牧場や農家で生産され育ち
- ②2歳に達すると馬せりかけられる
- ③馬の値段（昭和2～12年の平均）…軍馬は324円
- ※その他は129円
- ※景気の良い時は、良馬は2,000円以上もの値がついた
- ※馬は1頭78万円、米1俵7～8円だったので平均的な軍馬は1頭78万円
- ④軍馬補充部で乗用・輓用に調教
- ⑤2～5年後徴用ほとんどの戦地（満州、支那）へ
- が贈られ、その支部に甲功章（勲章）
- 青森・三本木支部の馬だった。
- 戦後、日本に帰還した軍馬はわずか2頭

生還した江刺飼育の名軍馬「勝山号」



コロナのなかでの731/100部隊研究



関東軍軍馬防疫廠（新京100部隊）

- 1933年（昭和8年）に新京（現・長春）の寛城子に臨時病馬廠として設立。
- その時点では関東軍の獣医部長だった高橋中佐が責任者で、高橋部隊と称していました。
- 1936年（1938年？）に天皇の軍令によって孟家屯に移転し正式に関東軍軍馬防疫廠となりました。
* 在満兵備充実に對する意見（1936年4月23日、関東軍参謀長板垣征四郎）
- 陸軍次官梅津美次郎への要望書（陸満密大日記より）
- 第24、関東軍軍馬防疫廠の新設増強：関東軍にて臨時編成しある病馬廠を改編して傷病馬の収療、防疫、疫細菌戦対策の研究機関たらしむる如く関東軍軍馬防疫廠を新設す
- 駐屯地は寛城付近とす
- 敷地 東西 1.5キロ
南北 2.5キロ
建物 敷地内に約100
捕虜収容所 約40人
死体焼却炉 3基
- 支部 大連、ハイル（後に克山に移転）、チャムス、拉古、東安、鶏寧、東寧、四平

- 「100部隊が実践した細菌戦」
- 100部隊の細菌生産能力は、年間で炭疽菌200キログラム、鼻疽菌100キログラム、赤痢菌2〜30キログラム（*1942年、ハイルの北約120キロのソ連国境で行なった「三河演習」第1部長村本金地面を炭疽菌で汚染した。
- * 1000頭に近い馬を、炭疽菌で感染させ、モンゴル人を使ってソ連国境まで運搬、ソ連の領域に放した。
- * 1945年、ソ連国境の南ハン・ゴールで、細菌を雪の上、草の上に放置して、動物がペストや羊痘に、ソ連に流れ込むデンプル河に鼻疽菌を散布し、いかに感染するかの実験をした。
- * 人体実験は731部隊と協力し安達野外実験場を使用した
- 初期部隊長 並河才三（猛家屯に移転するまで、そして高島一雄の牛疫に感染した牛の肉を粉末にして飛行機から散布した。後再度部隊長）、隊員約900名、「細菌とウイルス実験を通して、鼻疽、炭疽、伝染性貧血および植物ウイルスの効能を解明し伝染させる」
- 第二部第6課=1943年12月新設の細菌戦専門部隊40-50名

きっかけ＝中国からの100部隊技師「加藤久弥」告発（2019）

中国侵略旧日本軍の細菌戦第100部隊の秘密に迫る_中国語_日本語

2019/06/20 16:43

中文 | English | Français | Deutsch | Русский язык | Español | العربية | Esperanto | 한국어 | BIG5

DATE: 119.6.20

中国語 Japanese.CHINA.ORG.CN

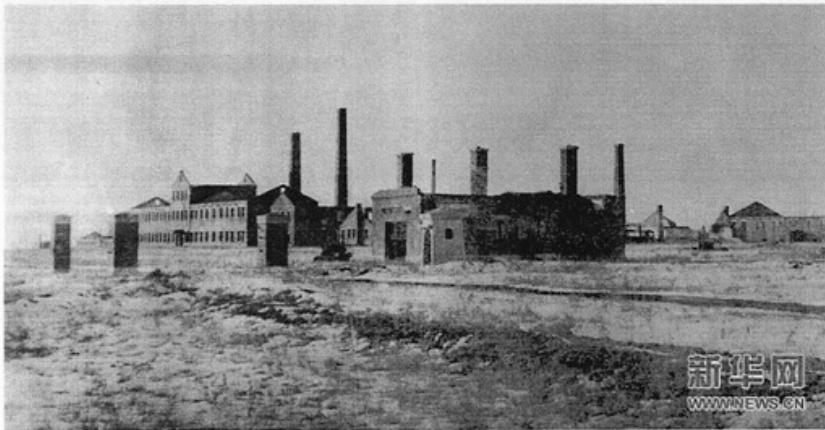
ホーム | 政治・安全 | 中日両国 | 経済 | 社会 | 文化・エンタメ | 観光 | フォトギャラリー | 生態 | 特集一覧

中日両国

japanese.china.org.cn 122.09.2018

中国侵略旧日本軍の細菌戦第100部隊の秘密に迫る

タグ: 犯罪 第100部隊 遺跡 歴史 会演皇宮博物館



中国侵略旧日本軍第100部隊（以下、第100部隊）は神秘的で耳馴染みのない番号である。旧日本軍の中国侵略期間、「防疫」を名目としたこの謎の部隊は各種の致死性の細菌を研究し、細菌兵器を製造し、無数の人々の命を奪い、動植物を実験品として東北地区全域、さらには全国に細菌戦の脅威を与えた。

今では恐ろしい細菌戦は歴史となり、日本侵略者の歴史の真相を隠そうとする企図が明るみにになっている。我々は侵略者の当時の残忍な犯罪行為を訴えるとともに、このような脅威がある中で奮闘し続けた同胞にも留意する必要がある。彼らは第100部隊が与えた苦しみを経験し、抗戦勝利のために戦い続けた。

細菌戦の「悪魔」が降臨

1945年8月、長春西郊外の孟家屯付近にある隠れた中庭で、多くの旧日本軍兵士が写真、実験記録、一連の関連資料を焼却処分した。彼らが燃やす資料の中には、長年にわたって秘密にされていた恐ろしい事実が隠されていた。



中国・偽満州国皇宮博物館関係者の来阪にあたり

偽満州国皇宮博物館による

100 部隊調査の報告会・懇親会

日頃は当協会のご諸事業にご協力いただきありがとうございます。

この度、偽満州国皇宮博物館の副院長等一行が来日されることになりました。

この機会に偽満州国皇宮博物館による関東軍軍馬防疫廠（通称 100 部隊）の調査の実情・研究の報告会を行います。100 部隊とは 1936 年に、大日本帝国陸軍によって満州の長春に設置された部隊です。表向きは、獣医部隊として馬やその他の動物に関する病気の研究を目的としていましたが、実際は 731 部隊と同じように細菌戦の研究・実践を行い、人体実験もしていたと言われています。

下記の日程で、「100部隊」についての講演と懇親の会を行います。たいへん貴重な交流の機会となりますので、ぜひとも参加いただきますようご案内申し上げます。

日 時 2019 年 6 月 7 日（金）午後 3 時～5 時 30 分

場 所 大阪保険医協会・5 階会議室

住所 大阪市浪速区幸町 1-2-33

電話 06-6568-7721 FAX 06-6568-2389

内 容 1 部：懇談・交流 午後 3～5 時 30 分（会館 5 階会議室）

2 部：懇親会 6 時～8 時

会 費 1 人 5,000 円

主 催 大阪府保険医協会

* 参加申し込みは、上記のお電話か F A X、またはメール y-adachi@doc-net.or.jp
で、大阪府保険医協会（事務局・足立）までご連絡下さい。

加藤久弥獣医は第5代岩手大学学長、100部隊体験を退官 記念本でのみ記述（山口本治新潟大農学部長も同じ）

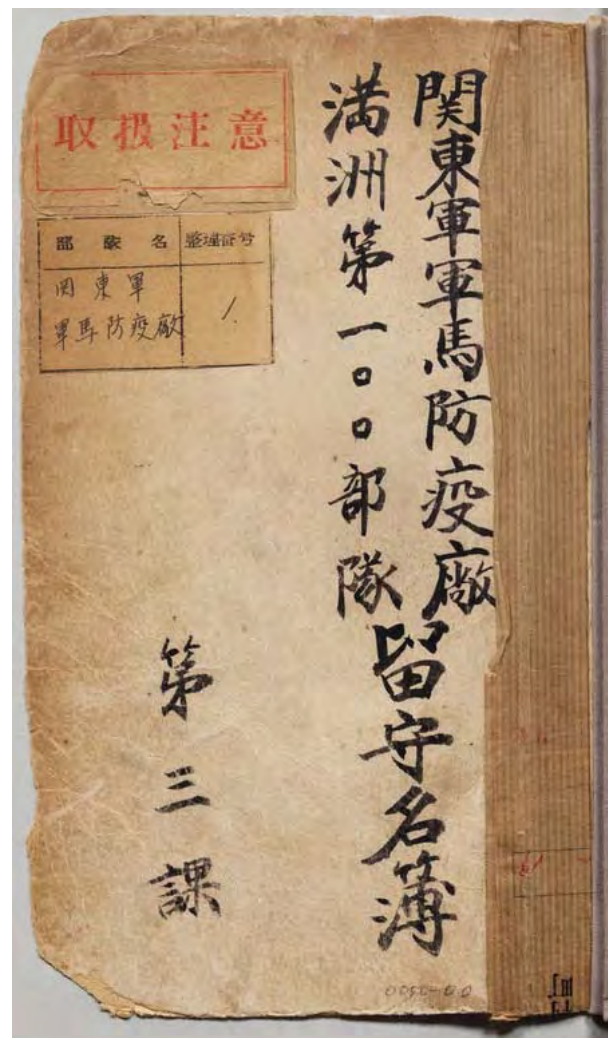
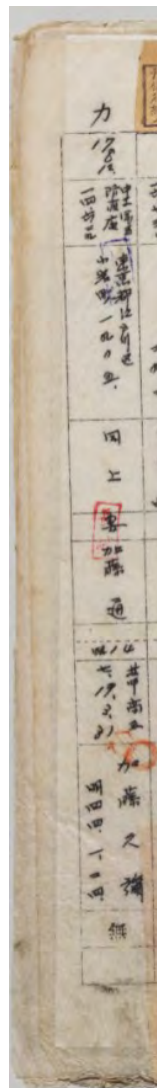


加藤先生近影（昭和25年6月）



軍医当時新卒（昭和20年正月）

東京大学臨時（昭和22年）



第5代岩手大学学長「加藤久弥」が
100部隊獣医技師であった証拠

- ①100部隊「留守名簿」
- ②1981岩大退官時「一獣医学徒の回想」で自認
- ③「陸軍獣医団報」及び「盛岡農林学術報告」寄稿論文
- ④100部隊人体実験・細菌戦証言者である三友一男『細菌戦の罪』の記す、100部隊長若松有次郎隊長との共同研究

小河孝の100部隊研究（戦医研会誌21－1、2020）によると、細菌戦実行部隊は2部6科で、山口本治（戦後農林省家畜衛生研→新潟大学農学部長）と保坂安太郎（戦後東芝製薬）が責任者、GHQ・LS(法務局)に内部告発したのは紀野猛と西村武、加藤久彌は戦後日本獣医学会研究所から岩手大農学部長・学長。民間研究所に職を得たのは、幹部の佐々木文存・金田弘倫が京都微生物化学研究所（京都微研）で佐々木は社長、日本生物科学研究所（日生研）に財前旭夫と林昇といずれも「ワクチン村」就職。隊長若松有次郎は予研から「日本医薬」、保坂安太郎は「東芝製薬？」とされる。

表 3. 100 部隊隊員の戦後の主な勤務先

農林省	6	家畜衛生試験場（5）、動物医薬品検査所
地方公務員	6	青森県、埼玉県、長野県、愛知県（2）、三重県
国公立大学	8	北海道大、帯広畜産大、岩手大、東京大、新潟大、名古屋大、大阪府立大、宮崎大
私立大学	5	日本獣医畜産大（4）、麻布獣医大
民間研究所（製薬会社を含む）	5	日生研（2）、京都微研（2）、東芝製薬
開業・共済獣医師	2	北海道、福岡県
不明	25	



倉内喜久雄等731大連支部のワクチン研究者が戦後職を得た「株式会社日本生物科学研究所（日生研）」は、もともと獣医学の朝鮮総督府家畜衛生研究所の中村稔治（牛疫ワクチン開発者）が帰国後「比較病理学研究所」を作り、加藤久彌・山口本治ら100部隊帰国者が一時勤務した「日本獣医師会研究所」と47年に合併して作った「社団法人日本生物科学研究所」の営業部門。現在でも日生研は、家畜・ペット用獣医学ワクチン市場の最大の供給元。

財団法人 日本生物科学研究所の歴史

野村 吉利¹

財団法人日本生物科学研究所の原点は1946年（昭和21年）終戦直後の混乱期に生まれ、わずか1年余という短命で消えた比較病理学研究所にあった。その後社団法人日本生物科学研究所（1947～'59）から財団法人日本生物科学研究所（'59～2012）へと変遷し、2012年（平成24年）に公益法人制度改革により一般財団法人日本生物科学研究所へ移行した。今年で通算70年という歴史は我が国の戦後に設立された家畜衛生分野の民間研究所としては最長に属する（表1）。

1946年1月
(昭和21年)

比較病理学研究所

日本獣医師会研究所

立川市

1947年3月
(昭和22年)

社団法人 日本生物科学研究所

立川市

1959年12月
(昭和34年)

財団法人 日本生物科学研究所

----- 日生研株式会社

立川市

1966年6月
(昭和41年)

附属実験動物研究所開設
(小淵沢支所・社)

山梨県
小淵沢町

1969年5月
(昭和44年)

青梅支所・社開設

青梅市

1978年4月
(昭和53年)

本所・社を青梅支所・社に統合

青梅市

2012年4月
(平成24年)

一般財団法人 日本生物科学研究所

----- 日生研株式会社

青梅市

2016年4月
(平成28年)

現在

青梅市

表1 財団法人 日本生物科学研究所組織改革の変遷

接点 = 日生研と実験動物、AMED

- 100部隊を含む獣医学者中心の日生研は、動物実験による研究・商品開発が必要なので、731部隊大連支部長・伝研教授・武田薬品顧問の安東洪次が帰国後作った日本実験動物学会・実験動物中央研究所と密接に関係し、安東を理事に迎える（日生研「60年のあゆみ」2007, 1959－1975理事）。
- 安東は帰国後、1950年に伝研教授・第5研究部長になっている。49年12月から武田薬品顧問をつとめ、51年には日本実験動物学会（の前身実験動物研究会）を設立して初代会長をつとめた。54年定年退官後は実験動物中央研究所長、理事長・所長・名誉所長をつとめ、「わが国における実験動物の近代化に貢献」した（加藤、戦医研究会誌19－2, 2019）日本モンキーセンター常務理事
- 実験動物中央研究所（実中研）は、国、教育機関、企業、そのいずれにも属さない、極めてユニークな存在である。現代日本でゲノム医療を推進する大坪寛子は、内閣官房付の厚労省審議官として、日本医療研究開発機構（AMED）・医療情報基盤担当室の室長も兼任した。そこで出された、2020年日本医療研究開発大賞の「健康・医療戦略担当大臣賞」には、731部隊研究では細菌戦・人体実験の後継組織として知られる公益財団法人「実験動物中央研究所」が選ばれた。受賞理由に「1952年創設以来、実験動物の飼育技術の確立、動物の品質管理研究を行い、日本の実験動物学の発展に大きく寄与。また、臨床と基礎を結ぶトランスレーショナル研究のための動物実験系の発と提供を行い、インビボ実験医学という科学領域を確立」とある。朝鮮戦争時の実験動物中央研創設者は、731部隊大連支部長で、東大伝研教授・武田薬品顧問であった安東洪次で米軍406細菌戦部隊とも深い関係があった。

東芝生物物理化学研究所からデンカへ

このうち大手に属する「デンカ」は、もともと新潟の東芝生物物理化学研究所であった。「にいがた731部隊展」の資料によれば、石井四郎による防疫研究室（防研）が新潟に開設されたのは1932年だが、ここは基礎・理論面の拠点であり、人体実験が、人目を避けるためハルビン郊外の平房に実戦部隊が出張所「が新潟競馬町にできたのが44年4月。現在関屋分水近くの新潟市に移った。3代目所長が石井の右腕と言われた内藤良一（ブラッドバンク社長）、平房における細菌戦研究のトップであり内藤とともに石井の片腕だった金子順一少佐であった。金子について書き加えれば、先の新潟出張所は「東芝生物物理化学研究所新潟支部」技師長になった。旧軍時代の約600名中180名がここに移った。戦後ワクチンメーカー「デンカ生研（株）」（五泉、糸魚川）となる。

- 1950年2月11日 - ワクチン・血清等の製造販売を目的に、東京芝浦電気（現・東芝）の100%子会社として株式会社生物物理化学研究所を設立。
- 1951年8月28日 - 東芝化学工業株式会社と改称。
- 1979年7月10日 - 東芝の子会社から電気化学工業（現・デンカ）の子会社になる。

- 1982年1月11日 - デンカ生研株式会社（現社名）に改称。
- 1999年12月3日 - 株式を店頭市場に登録（現在のジャスダック）。
- 2008年4月1日 - 株式交換により、電気化学工業（現・デンカ）の完全子会社化（3月26日上場廃止）。
- 2020年4月1日 - デンカに吸収合併され、ライノベーション部門の一部（ワクチン・診断薬事業本部）となる
- 「動物用ワクチンのパイオニア」京都微生物化学研究所（京都）。京都微研は1948年6月設立で、100部隊幹部で2部6科であった佐々木文治獣医中尉が社長、金田予獣中尉も加わったとすれば、100部隊の流れが大きく関与した可能性がある。
<https://www.kyotobiken.co.jp/about/history.htm>（なお、731部隊から貴宝院秋雄、大田黒猪一郎が加わった京都微生物研究所とは別である。
<https://kml.kyoto/about/history/>）

●1948年京都・島根ジフテリア予防接種禍事件は、84人の犠牲者/1000人被害を出した戦後日本薬害史の原点、ワクチン禍と本格的医療訴訟の始まりであるが、そのジフテリア予防接種液が大阪日赤医薬学研究所製造主任で731部隊出身の工藤忠雄の杜撰な製法であることをつぎとめた田井中克人の戦医研7-2、2007論文によれば、事件当時、ワクチンメーカーが41社、大阪だけで18社あったという。その中で731部隊との関連では、阪大微生物研（谷口・藤野）、武田薬品、目黒研究所（目黒正彦）、大阪日赤医薬学研究所（工藤）が挙げられた。

会 員 - 覧

[五十音順]

会 員	所 在 地
アステラス製薬株式会社	103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1
MSD株式会社	102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
北里薬品産業株式会社	108-0073 東京都港区三田5-4-3 三田プラザビル2F
グラクソ・スミスクライン株式会社	107-0052 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR
KMバイオロジクス株式会社	960-8568 熊本県熊本市北区大圃1-6-1
サノフィ株式会社	163-1488 東京都新宿区西新宿3-20-2
塩野義製薬株式会社	100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング7F
全国ワクチン株式会社	169-0072 東京都新宿区大久保2-9-12
第一三共株式会社	103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1
第一三共バイオテック株式会社	364-0026 埼玉県北本市荒井6-111
武田薬品工業株式会社	103-8668 東京都中央区日本橋本町2-1-1
田辺三菱製薬株式会社	541-8505 大阪府大阪市中央区道修町3-2-10
デンカ株式会社	103-8338 東京都中央区日本橋室町2-1-1
日本ビーシージー製造株式会社	112-0012 東京都文京区大塚1-5-21 茗溪ビルディング
一般財団法人阪大微生物病研究会	565-0871 大阪府吹田市山田丘3-1 大阪大学内
ファイザー株式会社	151-8588 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
Meiji Seikaファルマ株式会社	104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
株式会社UMNファーマ	222-0033 神奈川県横浜市長北区新横浜2-14-30 日能第17ビル

●今日の日本ワクチン産業協会の前身である細菌製剤協会「50年のあゆみ」（1996）によれば、加盟社数は1946年＝24社、47＝35社、48＝40社、53年＝26社、59＝16社、85＝20社、91＝24社、93＝25社、95＝24社、96年＝22社、と朝鮮戦争時がピークであったことがわかる。そこに731部隊・100部隊のワクチン関係者が集った。その後の薬害、ワクチン・予防接種警戒、結核激減による感染症対策の周辺化で、産業全体の規模が小さくなり、大手・外資で18社に再編、斜陽化してきた。



731部隊と「ワクチン村」の関係を早い時期に詳しく描いたのは、若きジャーナリスト斎藤貴男のブックレット『ワクチンの作られ方・打たれ方』1996。「日本のワクチンメーカーおよび研究機関の大部分は石井機関の人的流れを汲んでいるといっても過言でない」として、①阪大微生物研初代理事長・谷口腆二、②北里研所長・小林六造、③武田薬品ワクチン課長金沢謙一、④東芝生物理化学研・デンカ生研内藤良一・金子順一、⑤熊本医大実験医学研究所・化学及血清療法研究所（化血研）、⑥千葉県血清研究所、⑦東北防疫研究所・細菌化学研究所、について詳しく記述している。

斎藤貴男『ワクチンの作られ方・打たれ方』1996

戦争で歪んだ伝染病研究

ワクチン開発をはじめとする伝染病の研究体制は、しかし第二次世界大戦中に歪んでしまった。

戦時中のワクチン研究と製造は伝染病研究所（伝研）、北里研究所（北研）、そして東京・戸山にあった陸軍軍医学校防疫研究室（防研）の三機関を中核に進められていた。軍医学校がその役割を担うのは奇異にも映るが、当時、ワクチン接種は一般国民ではなく主として徴用された兵士になされたものだったから、これはこれで自然の成り行きだった。

しかし、軍は伝染病をもたらすウイルスや細菌を、たんに治療のための研究対象としてばかりは考えなかった。それらは敵を殲滅させ得る兵器の一種とも見なされ、旧満州（現在の

中国東北部）では、軍医学校教官だった石井四郎の率いる七三一部隊（関東軍防疫給水部本部）が中国人捕虜たちを使って生体実験・解剖を重ねた。また南京大虐殺で知られる南京の南支那派遣軍にも細菌戦を研究する部隊（多摩部隊）が存在した。

悪魔の所業は外地の出先機関が独断でおこなったわけではない。多くの研究者が指摘するところによれば、七三一や多摩部隊はあくまでも実践部隊であり、ここでの実験成果を基に戸山の防研が理論面や戦略を立案していた。すなわち防研こそが司令塔であったとされる。のちに一九八九年、軍医学校があった敷地に国立予防衛生研究所が移転してくるための建設工事中、三五体分ほどの人骨が発見され、戦時中との関連が問題視されたのはこのためである。

ところで七三一部隊の行動は、その性格上、必ずしも正式な命令系統にだけ基づいてはいなかったらしい。石井を中心とする、多分に個人的な人脈のネットワークによって推進されていた。このネットワークを「石井機関」と呼ぶことが少なくない。「石井機関」はそして、今日に至るわが国の予防接種の世界に、暗い影を落とす続けている。

戦後のワクチン研究・開発体制

一九四五年の終戦を迎え、日本の社会は一変した。ワクチンの研究・開発体制も例外ではなかった。



●新宿区戸山町の予研移転反対闘争指導者であった故・芝田進午は、「多くの731ネットワークの医学者・薬学者・大学教授退職者がワクチン企業を設立したり天下ったりした」とした（芝田「医学者の倫理と責任」山口研一郎編『操られる生と死』小学館1998）。芝田によれば、早川予防衛生研の早川清、興和の山内忠重、日本製薬の国行昌頼、武田薬品の金沢謙一、北里研究所の笠原四郎・春日忠善、東芝生物物理化学研究所・デンカ生研の宮川米次、阪大微生物研の谷口腆二がその実例。さらに検証必要。

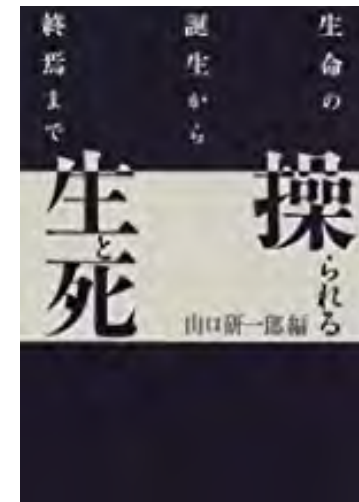
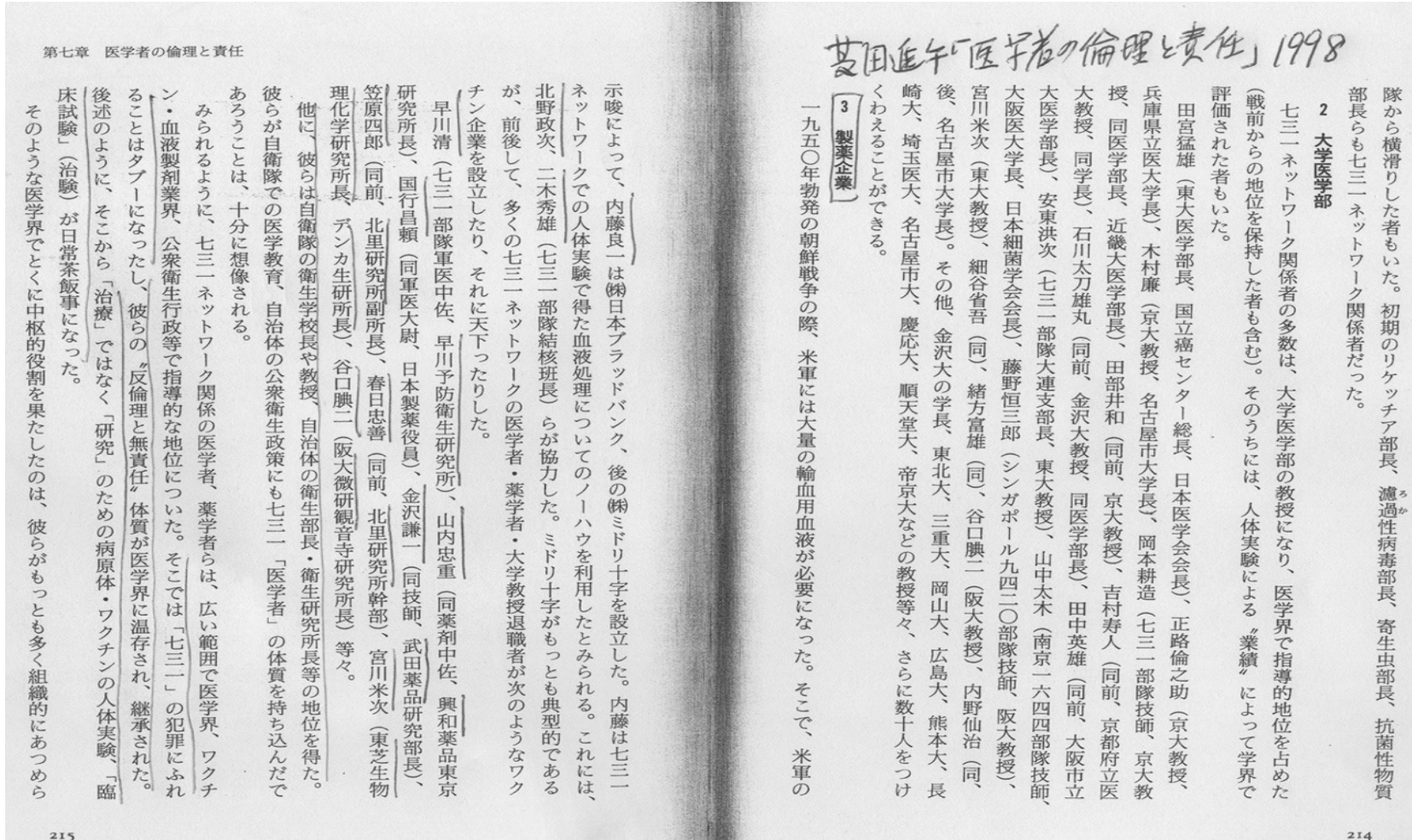


図1. COVID-19候補ワクチンの開発主体

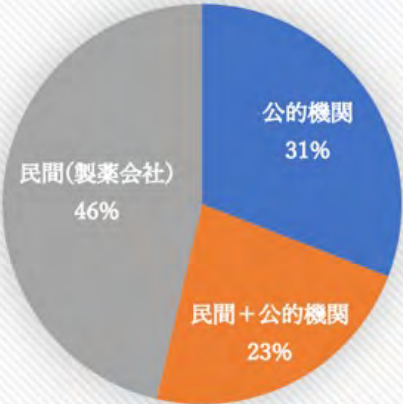
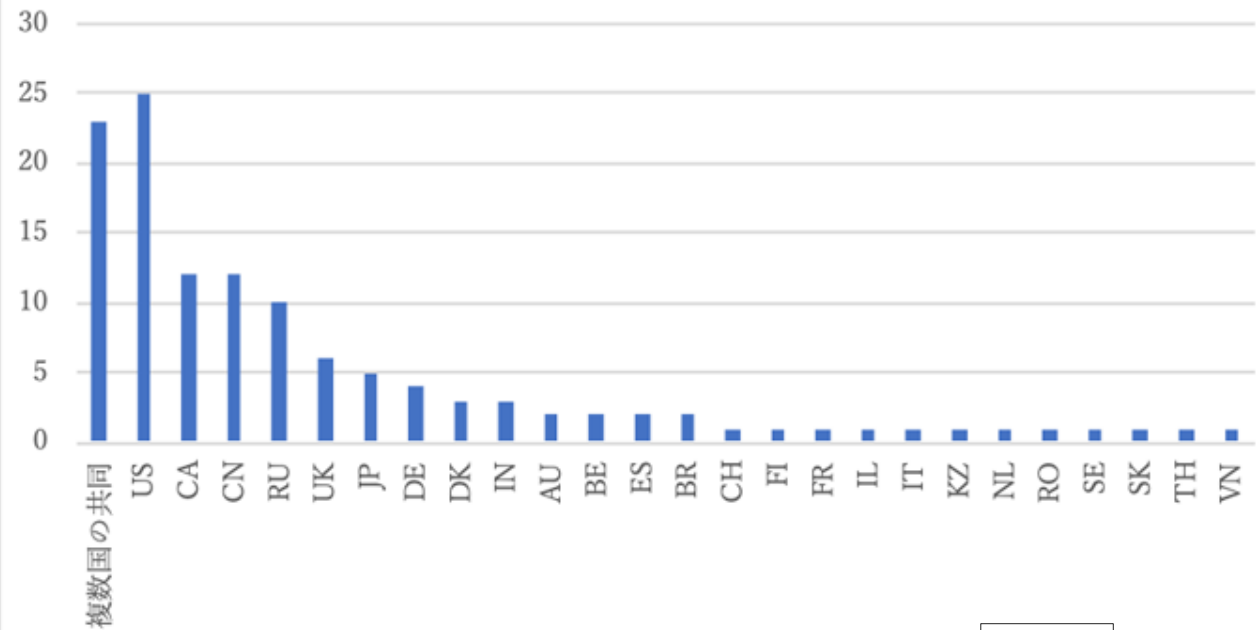


図2. ワクチン開発計画数



資料1-1

「護送船団方式」の国内ワクチン産業

国内ワクチン生産額 2739億円

国内で生産可能なワクチンの生産額 約1500億円

化血研

321億円

阪大微研

308億円

北里第一三共

322億円

わが国のワクチン産業と市場の動向

厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会
研究開発及び生産・流通部会

Japanese Association of Vaccine Industries

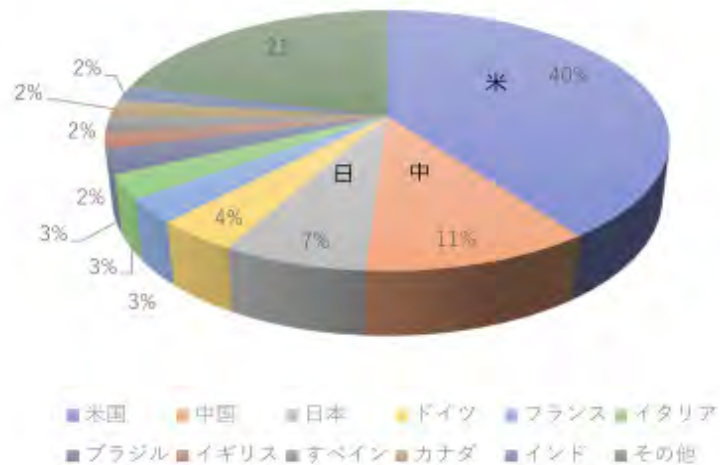


平成25年6月25日

一般社団法人日本ワクチン産業協会

ワクチンは典型的なバイオ医薬品である。しかし、日本では、産業構造の転換へのハードルと
いった技術的理由に加え、衛生環境が向上して土着の感染症自体が減少し、高齢社会の先頭を
走っているという、医薬品マーケットの需要を変化させる理由が存在する。結果、医薬品の研究
開発は非感染症（生活習慣病、がん、認知症など）に向かい、ワクチンや抗生物質といった感染
症領域への大きな投資はなされてこなかった。そもそもの問題として、感染症に関する日本国内
の市場規模が限定的であるため、感染症領域の医薬品開発は儲からないと考えられているのであ
 る。特にワクチンは、HPVワクチンに代表される訴訟リスクをおそれて官民ともに忌避されてきた。
 （東洋経済2021.2.12）

世界における医薬品市場シェア（2018年）



2020年版 製薬会社 売上高世界トップ10

集計対象：2019年12月期決算（一部日本企業は20年3月期）

%は前年比（公表通貨ベース）



各社の業績発表表をもとに作成

J&Jは医療用医薬品事業。*は公表通貨から米ドル換算（レートは19年平均）

製薬各社のワクチン売上高



・各社の16年度（化血研は15年度、海外企業は16年）決算資料をもとに作成。

・化血研は血液製剤と動物用ワクチン、阪大微研は動物用ワクチンを含む。

・海外企業の売上高は16年の平均レート（1ドル=108円、1ユーロ=120円、1ポンド=149円）で換算。

まとめ 「生物戦の愚かな第一歩は、日本の731部隊からはじまった」（トム・マンゴールド＝ジェフ・ゴールドバーグ『細菌戦争の世紀』原書房2000）

1 パンデミックに投影された細菌戦の3つの影

- ① 生物兵器と国家安全保障の時代
- ② 731部隊系譜の感染研・専門家会議、厚生技官・保健所体制とデータ独占
- ③ ワクチン製造など医薬産業・医事ビジネスへの寄生

2 戦前731医学の「感染症村」へのシステムの継承

- ① 内務省の「防疫」「衛生警察」、GHQ民主化？、結核終熄後は感染症周辺化
- ② 731部隊の隠蔽・免責・復権、白い巨塔と医師会政治
- ③ 感染症軽視＝安倍内閣「健康・保健戦略」とベッド数削減「地域医療構想」

3 「ワクチン村」に残された731部隊・100部隊の伝統

- ① 人獣共通感染症＝731部隊と100部隊の戦後生き残り
- ② 731部隊大連支部＝安東洪次、倉内喜久雄、日生研・デンカ・武田薬品
- ③ 永寿総合病院・ミドリ十字・精魂会・長友浪男・優生保護法強制不妊手術

(予告編) 5月3日日本近代文学館 (駒場東大前)

https://www.bungakukan.or.jp/cat-exhibition/cat-exh_current/14102/

島崎藤村「夜明け前」の周辺から



二〇二三年度日本近代文学館春季特別展

島崎藤村の世紀

編集 中山弘明
主 催 日本近代文学館

4/1 土 6/10 土

同時開催
川端文学のヒロインたち

開館時間 9:30 ~ 16:30 (入館は16:00まで)
休 館 日 日曜日・月曜日(祝日は開館)・4/27(木)・5/25(木)
※4/29(土・祝)・5/3(水・祝) ~ 5/5(金・祝) は開館
会 場 日本近代文学館 展示室
観 覧 料 一般300円 中学・高校生100円
ア ク セ ス 京王井の頭線「駒場東大前」駅 西口徒歩7分

公益財団法人 日本近代文学館
THE MUSEUM OF MODERN JAPANESE LITERATURE
Komaba, TOKYO
153-0041 東京都目黒区駒場 4-3-55 (駒場公園内)
tel 03-3468-4181
<https://www.bungakukan.or.jp/>

第三章 全集を編む

- 「定本版藤村文庫」と「破戒」表現史—
島崎藤村『破戒』初版定本版藤村文庫『破戒』

坂本一亀宛部落解放同盟書簡ほか

第四章 雑誌を編む

- 「処女地」と女性たち—

「子に送る手紙」原稿 「処女地」創刊号

有島生馬宛島崎藤村書簡ほか

第五章 「夜明け前」と芝居

—近代演劇の中の藤村—

「夜明け前」創作ノート 秋田雨雀日記

徳永直宛中野重治封緘書簡ほか

第六章 戦後作家と藤村

—島崎藤村コレクションから見えるもの—

島崎藤村「創作ノート」

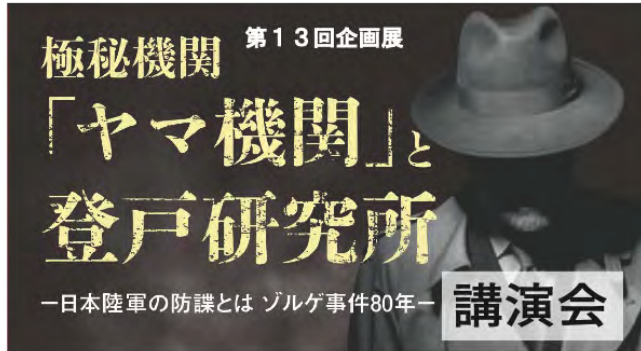
島崎藤村宛書簡 (上林暁・草野心平・庄野潤三ら) ほか

・ 蜷 記 念 イ ベ ン ト

- ・ 「島崎藤村展」記念トーク
- ・ 藤村と翫助—政治、美術そして文学—
- ・ 2023年5月3日(水・祝)
- ・ 13:30 ~ 15:40 (予定)
- ・ 加藤哲郎 (一橋大学名言教授・政治学)
- ・ 春原史寛 (武蔵野美術大学)
- ・ 芸術文化学科准教授)
- ・ 中山弘明 (本展編集委員)
- ・ 会場: 日本近代文学館講堂
- ・ 受講料: 500円 (展示観覧料込) / 会員無料
- ・ 申込: 事前予約制。メールかお電話で受付
- ・ 電話: 03-3468-4181
- ・ メール: touson-event@bungakukan.or.jp
- ・ お名前・お電話番号を入力の上送信してください。

(予告) 5.13明大登戸研ゾルゲ事件研究

<https://www.meiji.ac.jp/noborito/info/2022/mkmht0000002nnwq.html>



企画展関連イベント講演会② | 国際博物館の日 (2023年) 記念事業

△ゾルゲ事件についての 最新の研究状況 ▽

2023年

5月13日(土)13時-15時

※開場 12時半

要予約

無料

講師

加藤哲郎氏

(一橋大学名誉教授、尾崎=ゾルゲ研究会代表)

会場

対面：明治大学生田キャンパス中央校舎6階 メディアホール

オンライン：Zoom (ウェビナー機能利用)

主催 明治大学平和教育登戸研究所資料館

後援 尾崎=ゾルゲ研究会 (代表 加藤哲郎氏)

日時：2023年5月13日(土)

13:00~15:00 ※開場12時半

会場：明治大学生田キャンパス

中央校舎6階 メディアホール

およびオンラインライブ配信

(Zoomウェビナー機能を利用)

参加費：無料

定員：対面参加 **260名**、オンラ

イン 400名 (いずれも要事前予約、

申込先着順)

※対面参加の定員は当初お伝えし

ていた140名より変更となりました

主催：明治大学平和教育登戸研

究所資料館

後援：尾崎=ゾルゲ研究会 (代

表：加藤哲郎氏)

- 講演会概要：
戦前日本で活動していたソ連スパイ「ゾルゲ」(通称ラムゼイ)機関。その中心人物、占領期GHQ・G-2(参謀第2部)のC.A.ウィロビー准将による米国陸軍省報告での告発や、1964年以降ソ連が大祖国戦争勝利のシンボルに用いていたことと評価されてきました。20世紀最大の国際スパイ事件と評され、近年新たな史料の発掘が進み、これまでの評価が再検証されています。日本でもA・フェュン編、名越健郎・名越陽子訳『ゾルゲ・ファイル 1941-1945 赤軍情報本部機密文書』(みすず書房、2022年)を皮切りに、英語圏のベストセラーであるO・マシューズ、鈴木規夫・加藤哲郎訳『ゾルゲ伝』(みすず書房、2023年4月)など、尾崎=ゾルゲ研究会編の「新資料が語るゾルゲ事件」シリーズの刊行が進んでいる。今回の講演会では、最新の研究状況から判明したゾルゲ事件の新たな側面を明らかにします。

- 講師：加藤 哲郎氏 (一橋名誉教授、尾崎=ゾルゲ研究会代表)